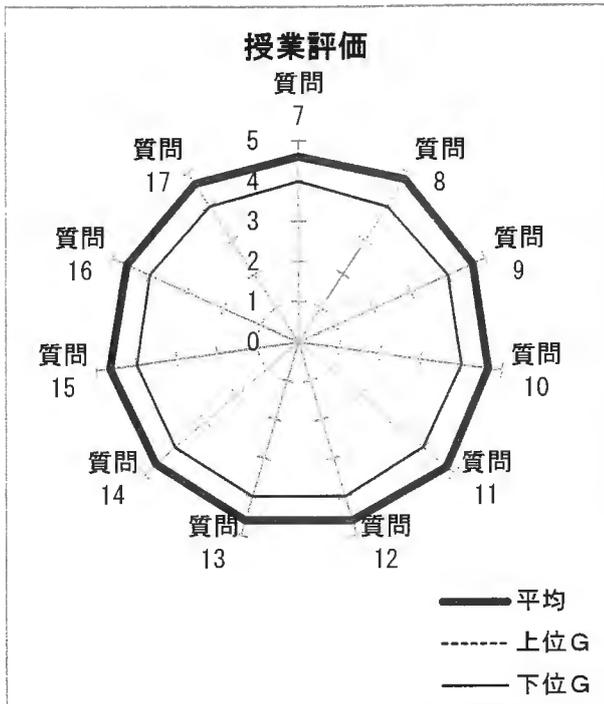


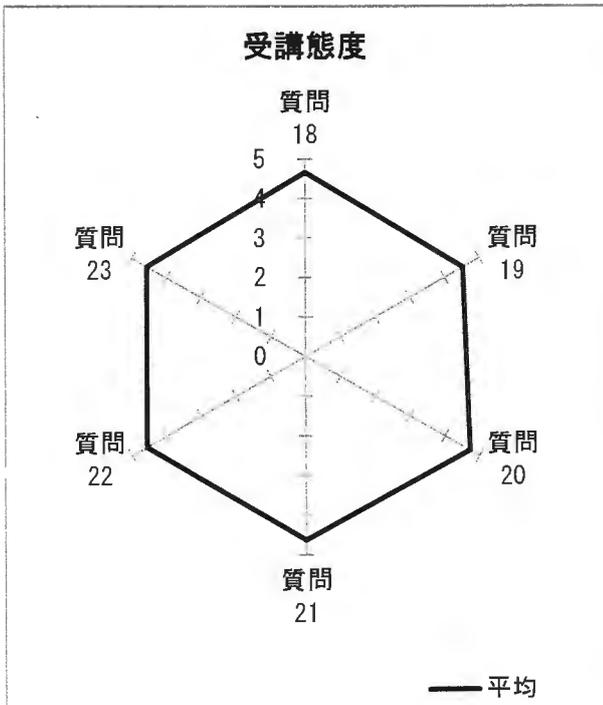
# 科目コード 116 (2017年度 前期)

文学部 英語学科 狩野 暁洋 英語 III (音楽・生テ2年)



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.7	4.0
質問 8	4.8	4.9	4.0
質問 9	4.7	4.7	4.0
質問10	4.7	4.7	4.0
質問11	4.8	4.8	4.0
質問12	4.6	4.7	4.0
質問13	4.6	4.7	4.0
質問14	4.6	4.7	4.0
質問15	4.7	4.7	4.0
質問16	4.6	4.7	4.0
質問17	4.7	4.7	4.0
平均	4.7	4.7	4.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.5
質問20	4.7
質問21	4.6
質問22	4.6
質問23	4.6
平均	4.6

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽・健康生活	音楽・デザイン	狩野 暁洋	英語 III	21 人

2017 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

授業評価の結果は上位 G の評価がほぼすべての質問項目で平均 4.7、下位 G については全ての項目で 4.0 となっている。グラフを見てもほぼ丸型である。下位 G に該当する学生は 1 人で、全ての質問項目に「どちらかと言えばそう思う」と回答した。これは全体の評価を全ての質問項目に当てはめたと受け止めることができる。上位 G に関しても同じような傾向が強い。完璧な教員などいるはずもなく、長所もあれば短所もある。つまり項目によって評価が高くなったり低くなったりするはずである。どの質問項目にも同じような回答をしていることは、人を個々の基準で判断するのは難しいことを示唆しているのかもしれない。授業全体として 5 点中 4.7 という評価であるならば、それほど悪くない授業であったと言えるであろう。

## II. 2018 年度に向けての取り組み

2018 年度担当予定科目名 : 英語 III

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

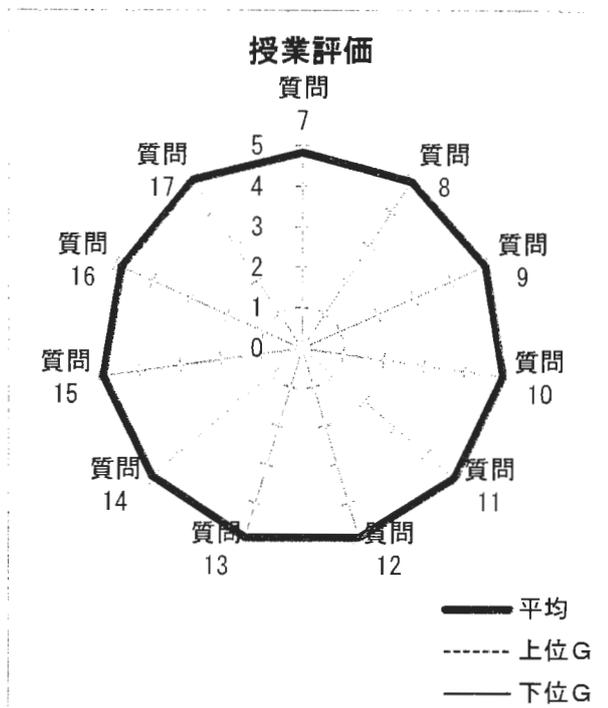
教養英語はほぼ全ての学科で同じテキストを用いて授業を行っており、テストも教科書に付随している共通問題を利用している。最初の頃は懇切丁寧にゆっくり説明してゆくが、学期の終わり頃になると時間が足りなくなり、予定の箇所まで、かなり急ピッチで進まなければいけなくなってしまう。いつもシラバスを参照して、進捗状況に注意を払いながら、授業を展開してゆきたい

テキストに付随しているテストには応用問題が多いため、基礎力がない学生は、授業で学んだ内容を家で勉強しても、それほどテストの成績に反映されない可能性がある。既存のテストに最初から頼るのではなく、もう少し教科書の内容を直接反映した基礎問題の比重を増やす方向で検討してゆきたい。

# 科目コード 130 (2017年度 前期)

文学部 英語学科 Sheila Norris キリスト教学 III

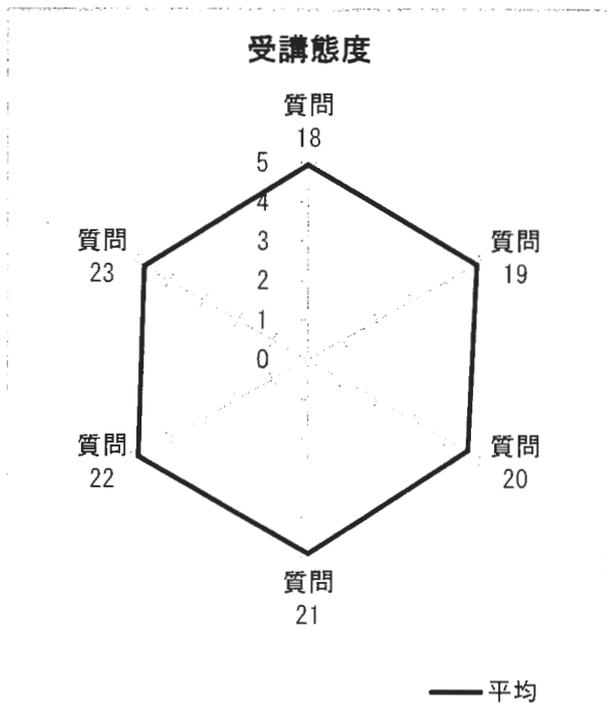
## 授業評価



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性

## 受講態度



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.8
質問20	4.6
質問21	4.9
質問22	4.9
質問23	4.7
平均	4.8

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	英語学科	Sheila Norris	キリスト教学 III	19

2017 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

#### I. 分析と評価

It is very pleasing to see that the students are positive about the class. What had never occurred to me until seeing these results is that this is the class that I most enjoy teaching, so maybe my feelings communicated to the students.

#### II. 2018 年度に向けての取り組み

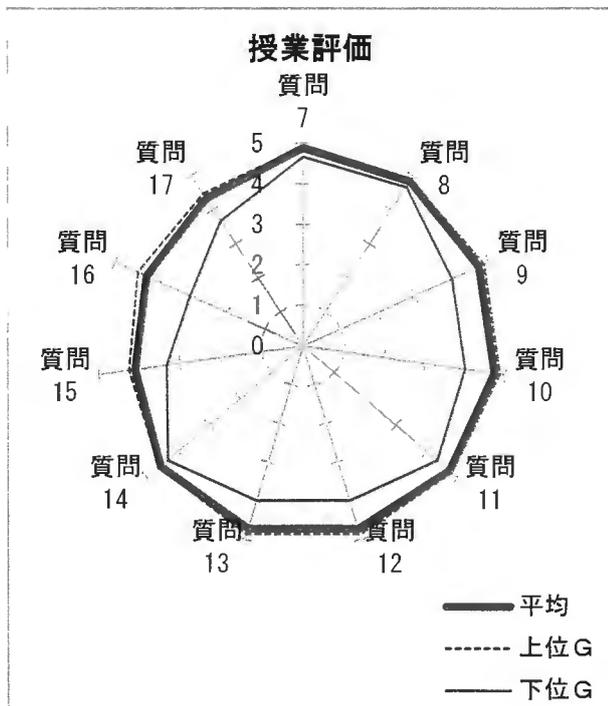
2018 年度担当予定科目名 : キリスト教学 III

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

I will continue to vary the approaches to the class materials, and try to make the classes as student-centered as possible, but it also seems that what my unconscious attitude is contributing towards a generally positive, enthusiastic atmosphere may be as big an influence as the materials I am using. (The concern then is to ensure that I try to avoid feeling any negativity about any other classes!)

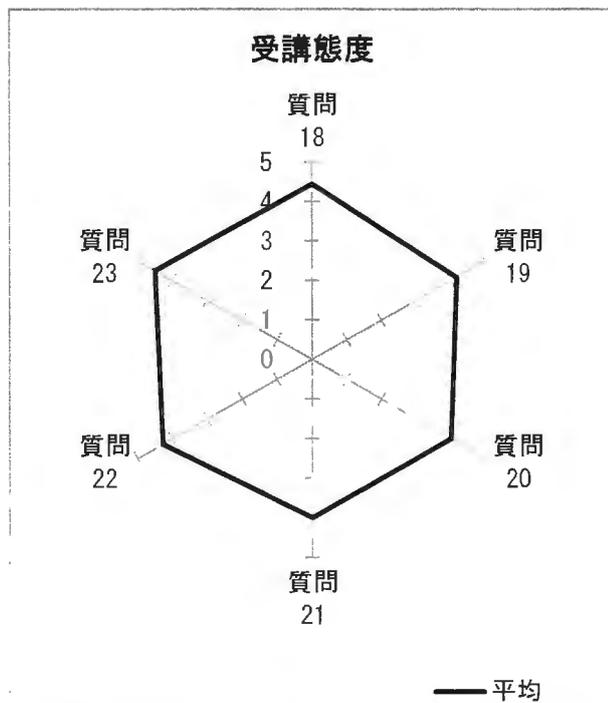
# 科目コード 143 (2017年度 前期)

文学部 英語学科 Richard Bent 英語 I (水曜クラス)



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	4.7
質問 8	4.8	4.9	4.7
質問 9	4.7	4.9	4.0
質問10	4.7	4.9	4.0
質問11	4.7	4.8	4.3
質問12	4.7	4.9	4.0
質問13	4.7	4.9	4.0
質問14	4.6	4.6	4.3
質問15	4.1	4.3	3.3
質問16	4.2	4.4	3.0
質問17	4.3	4.5	3.7
平均	4.6	4.7	4.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.2
質問20	4.0
質問21	4.0
質問22	4.3
質問23	4.5
平均	4.2

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	英語学科	リチャード・ベント	英語 I	15

2017 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

#### I. 分析と評価

The students appeared to respond well to the course. There were no major problems to be corrected judging by the way the students responded to the class. The course involved weekly reading assignments supplemented with teacher-provided timed reading exercises. The students hopefully learned to improve their reading speed and comprehension with the content.

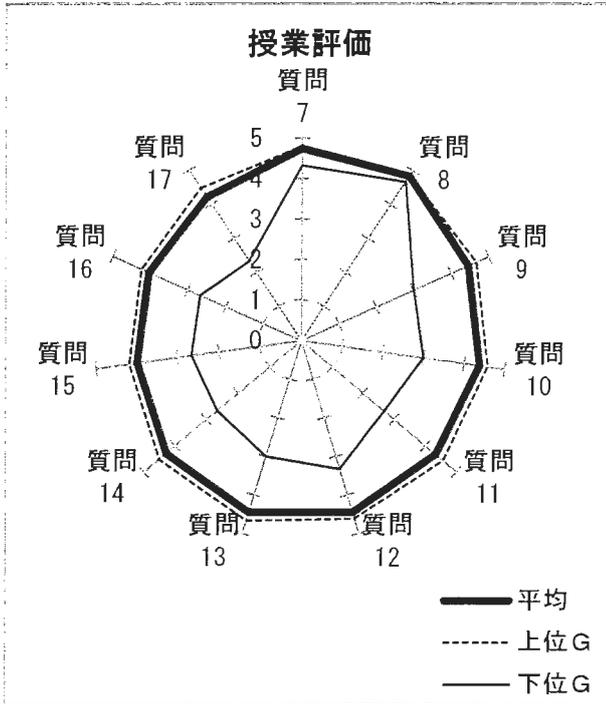
#### II. 2018 年度に向けての取り組み

2018 年度担当予定科目名 : \_\_\_\_\_

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

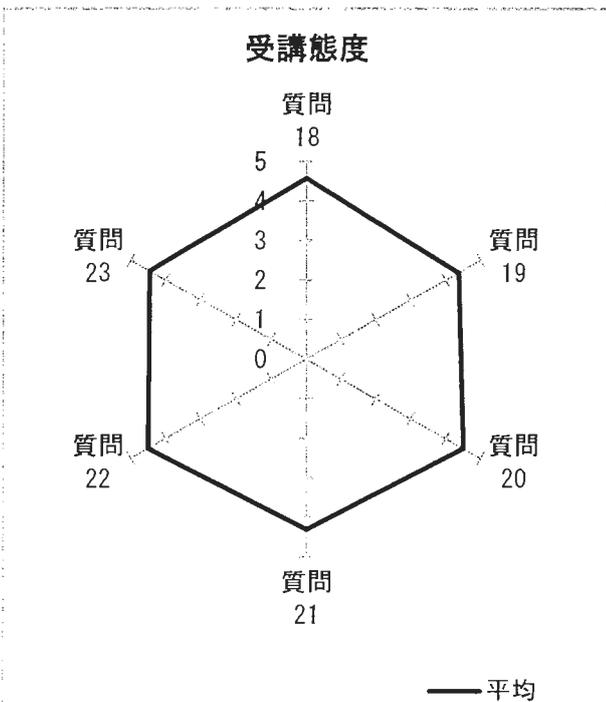
# 科目コード 225 (2017年度 前期)

文学部 現代日本文化学科 村元 宏行 教育制度論(幼免)



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	4.3
質問 8	4.8	4.9	4.7
質問 9	4.5	4.7	3.0
質問10	4.4	4.6	3.0
質問11	4.3	4.6	2.7
質問12	4.5	4.6	3.3
質問13	4.5	4.7	3.0
質問14	4.3	4.5	2.7
質問15	4.0	4.2	2.7
質問16	4.0	4.2	2.7
質問17	4.2	4.5	2.3
平均	4.4	4.6	3.1

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.4
質問20	4.5
質問21	4.3
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.5

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	村元宏行	教育制度論（幼免）	26

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

教員の所属は現代日本文化学科ですが、本授業は子ども学科の対象科目です。

相対的に評価が低い項目は「授業を理解できたと思うか」「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」という項目です。ここからすると、授業について難しく、取っつきにくく感じた学生が多いということになるかもしれません。

教育制度論は幼稚園教諭を目指す学生にとっては必修科目ですが、修得する内容は普段の保育実践にすぐには活かせる内容ではありません。さらに難解な法制度を読み解いていくという内容が含まれています。そのことが「授業の目標説明とシラバスに沿った実施」「教員の授業時間遵守」では比較的ポイントが高いにもかかわらず、前記のような結果になった一つの原因であるかもしれません。

## II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：教育制度論（幼免）

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

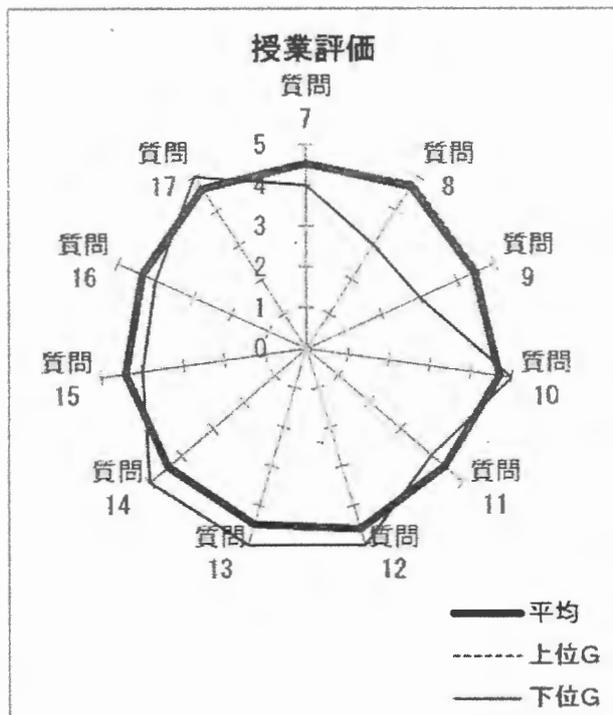
上記の分析を踏まえると、本授業においては学生が難しく、とっつきにくく感じる領域について、教員がわかりやすく、より興味を引き出すための工夫が他の授業以上に求められていると考えられます。しかしながら、「教員の話し方」「教員の説明のわかり易さ」について低いポイントしか得られていません。これについては深く反省し、改善しなければならぬと感じています。

改善点としては、学生が授業を理解できたかについてよりリアルタイムに確認していくような方法を考えるということです。具体的には、授業冒頭において前回の授業内容のキーワードについて尋ねて、理解が不十分であれば適宜復習を行うことが挙げられます。また、興味・関心・意欲を引き出すために、学生の将来の保育実践により近いような領域を教育制度の中からピックアップして取り上げることも心がけていきたいです。

一方で、実践に直結しなくとも、教育者、保育者として最低限理解しておかなければならない教育制度もあるはずです。そのことについては、なぜ、それを身につけることが必要であるかについて、より丁寧に説明していくこととしたいです。

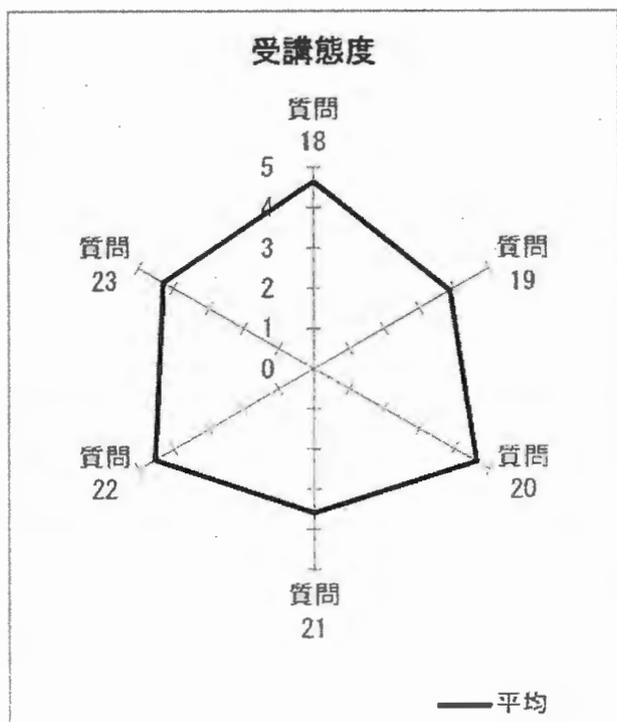
# 科目コード 311 (2017年度 前期)

文学部 人間関係学科 川場 隆 情報処理基礎



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.6	4.0
質問 8	4.7	4.8	3.0
質問 9	4.5	4.6	3.0
質問10	4.7	4.7	5.0
質問11	4.4	4.4	4.0
質問12	4.6	4.6	5.0
質問13	4.5	4.4	5.0
質問14	4.4	4.4	5.0
質問15	4.4	4.4	4.0
質問16	4.4	4.4	4.0
質問17	4.6	4.6	5.0
平均	4.5	4.5	4.3

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	3.9
質問20	4.6
質問21	3.6
質問22	4.5
質問23	4.3
平均	4.3

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
文学部	人間関係学科	川堤 隆	情報処理基礎	30名

2017 年度後期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2017 年度に向けての取り組み

#### I. 分析と評価

全体に良好であると判断する。

#### II. 2018 年度に向けての取り組み

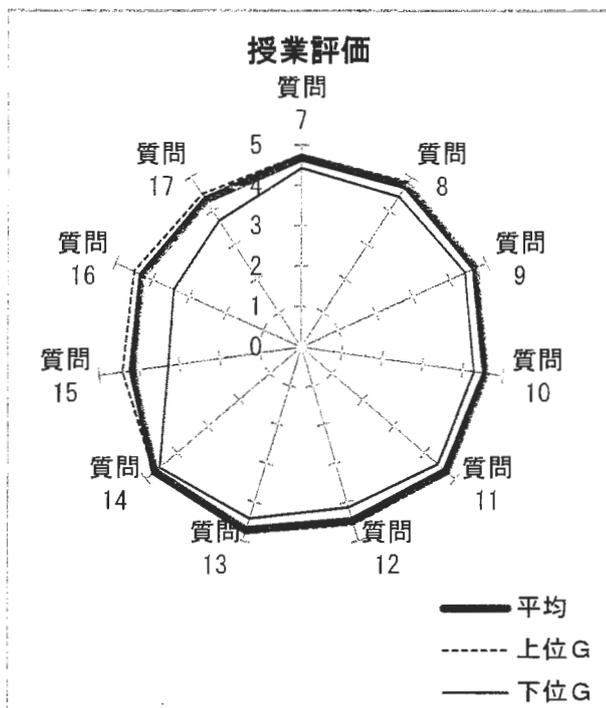
2018 年度担当予定科目名 : ウェブシステム

講義内容をすべて変更する予定。

詳細は未定。

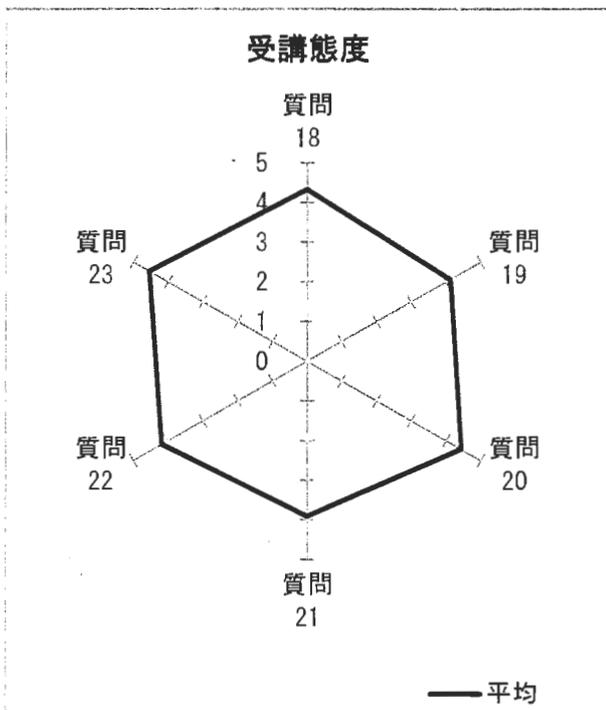
# 科目コード 330 (2017年度 前期)

文学部 人間関係学科 細井 浩志 日本の文化史



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.8	4.4
質問 8	4.8	4.8	4.4
質問 9	4.7	4.8	4.4
質問10	4.6	4.7	4.3
質問11	4.7	4.8	4.4
質問12	4.5	4.6	4.1
質問13	4.7	4.8	4.4
質問14	4.7	4.8	4.6
質問15	4.2	4.4	3.3
質問16	4.3	4.5	3.4
質問17	4.3	4.5	3.7
平均	4.6	4.7	4.1

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.1
質問20	4.4
質問21	3.9
質問22	4.2
質問23	4.5
平均	4.3

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
全学(看護を除く)	教養教育	細井浩志	日本の文化史	42

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

今年も陰陽道史の概説をしました。

前年度にくらべて、受講生は倍増しました。その割には評価は微増（横ばい）です。各項目の評価も余り変わっていません。全実施科目の平均より、やや上といったところです。上位G・下位Gとも全体で4.0を越えていました。ただし下位Gで、質問15・16の評価（理解できたか、関心が高まったか）が少し下がったのは残念です。前々回にくらべて、今回はこの項目が上昇していました。今回は説明がやや専門的で難しかったのかもしれません。

受講態度は評価が上がっています。特に質問20を見ると、欠席が大幅に減っています。確かに、ごく一部の休みが多い人以外は、真面目に出席した人が多かったようです。人数が増えて評価が維持されたのは、そのためだと思います。

## II. 2018年度に向けての取り組み

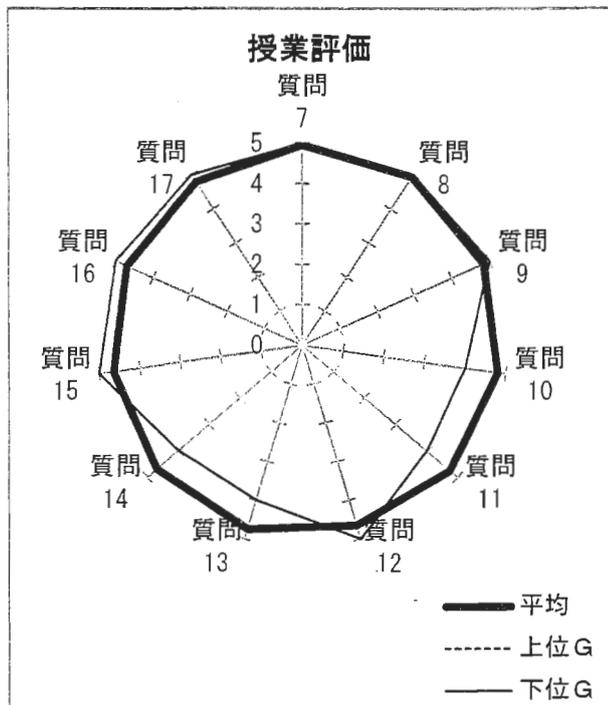
2018年度担当予定科目名： 日本の文化史

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

新たな、わかりやすい資料等の作成を考えています。また自己の研究成果をわかりやすく授業に反映させたいと思います。

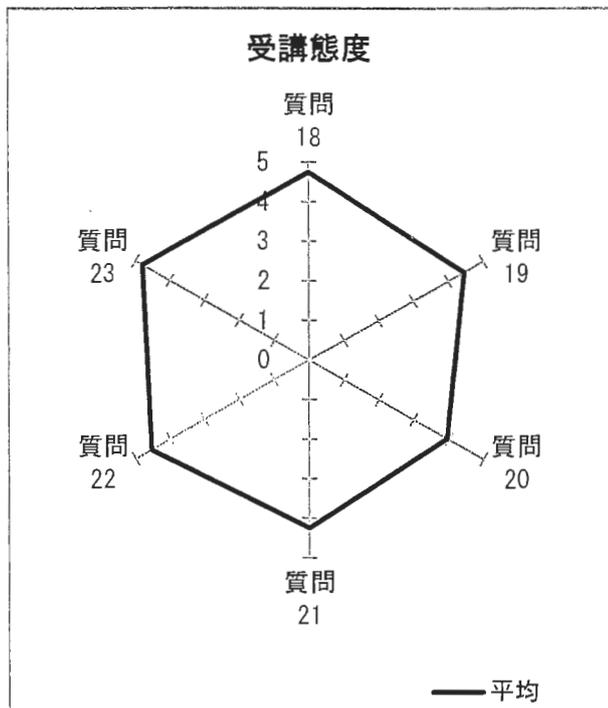
# 科目コード 401 (2017年度 前期)

音楽学部 音楽学科 碓井 貴美子 ソルフェージュⅠa～Ⅳa



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	4.9	5.0
質問 8	5.0	4.9	5.0
質問 9	4.9	4.8	5.0
質問10	4.8	4.8	4.0
質問11	4.8	4.8	4.0
質問12	4.7	4.6	5.0
質問13	4.8	4.8	4.0
質問14	4.7	4.7	4.0
質問15	4.7	4.6	5.0
質問16	4.7	4.7	5.0
質問17	4.8	4.8	5.0
平均	4.8	4.8	4.6

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8 : 教員の授業時間遵守  
 質問 9 : 教員の話し方  
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ  
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)  
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか  
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.5
質問20	4.0
質問21	4.3
質問22	4.6
質問23	4.8
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)  
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	碓井貴美子	ソルフェージュ I a~IVa	19

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

私が、今回初めてこの科目を担当するにあたって、ソルフェージュのトップクラスでの授業ということから、今までと同じようなことをやっても進歩がないと考えて教材を考えました。

学生にとっては、はじめて目にする教材であったであろうし、コツをつかむのに大変だったろうと考えます。しかし、世界的に見ても日本の音楽教育の中でソルフェージュ教育が遅れをとっているいま、ソルフェージュ先進国のフランス・コンセルバトワールの勉強法を体感し、習得していくことは必ずや社会にでて即戦力の支えのひとつとなると感じています。

音楽は学生其々の培ってきた勉強の差が大きく様々に反映します。トップクラスといえレベルの差がありますから得手不得手が出てきます。難しいことへの挑戦する意欲もまちまちであることは確かですが、ほとんどの学生が授業についてこようと必死になりながら、新しいことを知る喜びも同時に感じていることにうれしさを感じています。ソルフェージュ能力が高まることで、専門実技のさらなる磨きが可能になります。総合的に音楽を勉強していくことが、演奏の向上に直結的につながるという実感を得るためにも、学生には一つ一つ丁寧に取り組んでもらいたいと考えます。

## II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：ソルフェージュ I a~IVa

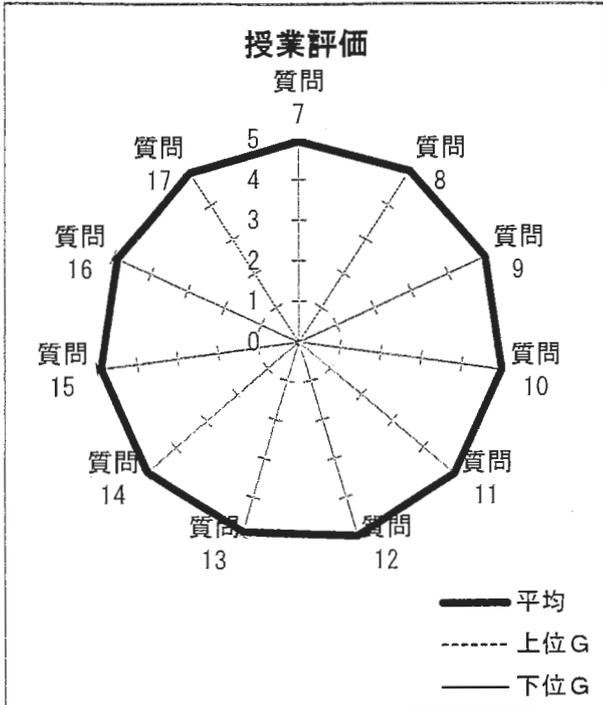
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

今現在使用している教材の中でも、学生たちがやってきた経験値が最も浅いであろうクレ読みの速読をどんどんこなしていきたいと考えております。さらに既存の教材にありがちな4声や調性もより、複雑さや難易度の高い、より高度なものの習得を目指し、多声や無調のものへの取り組みを強化し、耳を養うこともさらに目標にしていきたいと思っております。音を聞き分けることが最も重要な作業である音楽ならではの側面を鍛えるために、とても有効的に効果をもたらすことと考えます。

しかしながら、教員ばかりが先を追ってもいけません。学生に興味とやる気を持たせながら取り組んでまいり所存でございます。

科目コード 404 (2017年度 前期)

音楽学部 音楽学科 持松 朋世 音楽科教育法 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)

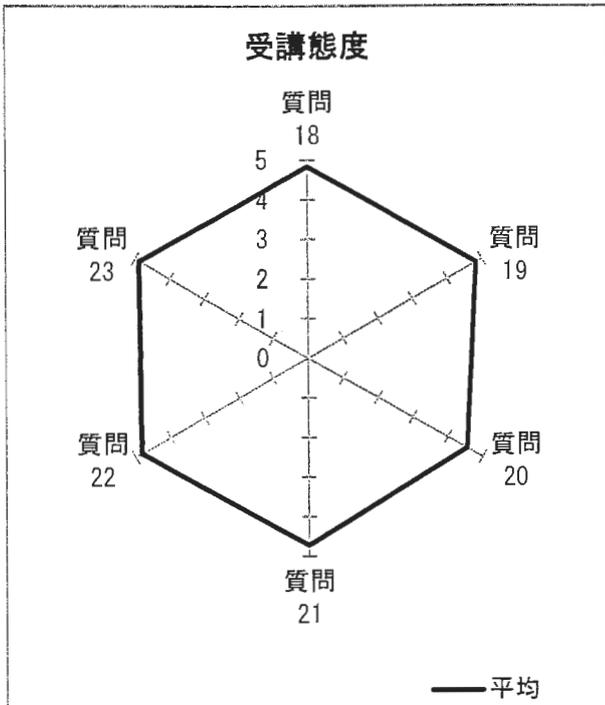
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.8
質問20	4.6
質問21	4.7
質問22	4.8
質問23	4.9
平均	4.8

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	持松朋世	音楽科教育法 I	18 名

2017 年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

授業の実際と集計結果より当事者が授業を行う中で、学生の授業評価と受講態度において本評価は平均的なものと受け止める。授業評価は勿論であるが、受講態度も教員の授業の臨み方次第であると思われることから、今回の結果を受けて学生を如何に授業に積極的に臨ませるか、授業へのアプローチ方法などにおいても検討の必要性を感じる。

これらの結果から授業の振り返りを行うことが出来ることは大変有意義なことであり、教育の授業においては特に本時の目標、そして授業終了時には本時の振り返りを行い、本時の学びを各々が得て、今までの学びと統合化を図ることが必要と思われる。今後その他の授業でも授業者本人が振り返りを行うことで、学生に対しより良い授業を提供する為の検討を行っていききたい。

## II. 2018 年度に向けての取り組み

2018 年度担当予定科目名：音楽科教育法 I・II・III・IV

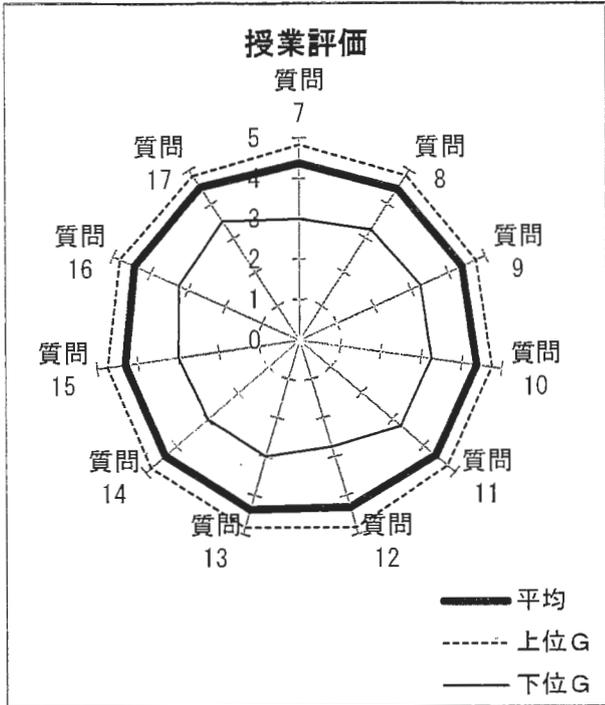
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2018 年度も同様に音楽科教育法 I～IV の授業を行うことになるが、昨年度の反省を活かしてさらに計画的に取り組んでいく予定である。学校教育の中では、授業の開始時間に教員が前に立って本時の目標を提示し、生徒と共に学ぶ体制を整えておくこと、さらには授業後には本時の学びを振り返り、次時への見通しを立てることが必要であると考え。将来教育者を目指す為の授業として授業時間の厳守、授業目的の明確化などを、一方通行の授業ではなく学生の学ぶ意欲を高める授業の在り方について、検討を重ねたい。

学生は教員の姿を映す鏡である。言葉で伝えられないことも学生は教員の在り方一つで伝わってしまうという厳しさを忘れずに、特に教科教育法の授業では座学と現場での実践に繋がるという緊張感を持って授業を展開したい。

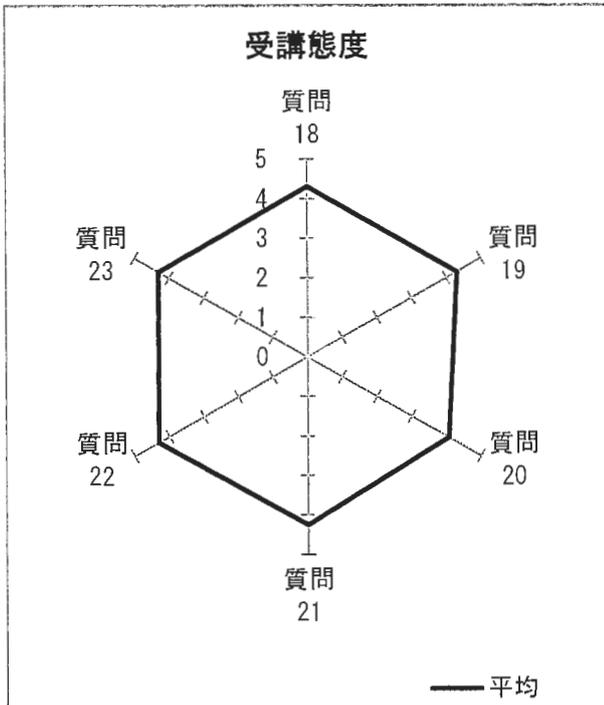
科目コード 406 (2017年度 前期)

音楽学部 音楽学科 安川 徹 作曲法



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.4	4.8	3.0
質問 8	4.4	4.8	3.3
質問 9	4.4	4.8	3.3
質問10	4.4	4.8	3.3
質問11	4.4	4.8	3.3
質問12	4.3	4.8	2.8
質問13	4.4	4.8	3.0
質問14	4.4	4.8	3.0
質問15	4.3	4.8	3.0
質問16	4.4	4.8	3.3
質問17	4.5	4.8	3.5
平均	4.4	4.8	3.1

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.3
質問20	4.1
質問21	4.3
質問22	4.3
質問23	4.3
平均	4.3

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	安川 徹	作曲法	19

2017年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

グラフを見る限り、特に問題はなさそうに思う。

今年度は新しい取り組みとして、授業の最後に提出した自作曲を新戸町ホールで演奏をして実際に音にしてみるという試みを行った。課題は例年の通り、4つの音を学生に選ばせて(G-A-G-C)、それを元に32小節以上の曲をつくるというものであったが、ポピュラーコースの学生たちはそれを元に歌詞まで付けてそれをバンド編成で演奏するという大変熱の入った結果を出すことができた。また、演奏会の最後に吉田峰明先生にもお願いして、同じモチーフを使って二人の教員の作例を披露するという試みも行った。実際の授業の中では、学生たちには作曲の勉強をする必要性があまり感じられていないように思うことがあるが、実際に卒業して教職などにつくと作曲や編曲など当然のように依頼される機会が多くなり、ちゃんと勉強しておけば良かったという声も入ってくるので、これらの声も踏まえて、もっと積極的に作曲に取り組めるような工夫をこれからもしていきたいと考えている。

## II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名： 作曲法

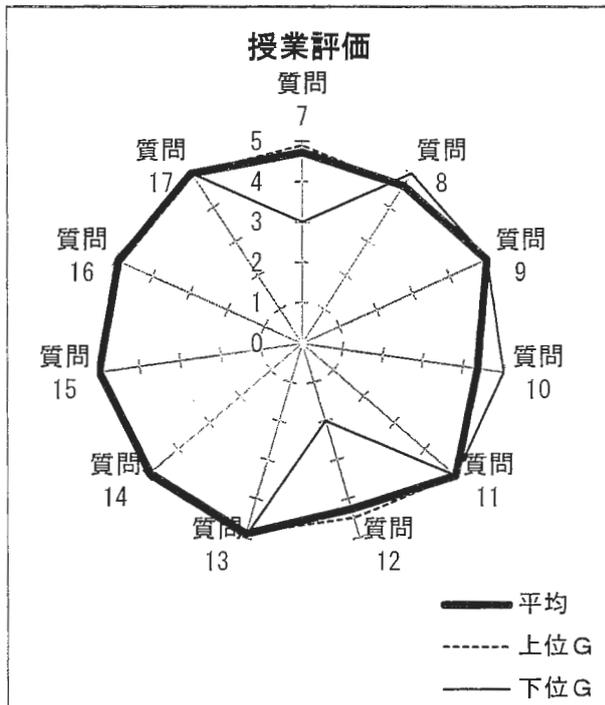
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

例年の学生の作ってきた旋律を添削しつつ、作曲の色々なテクニック(旋律法、和声付、形式、伴奏法)を提示していくやり方を継続していこうと考えている。これは事前に考えおくのではなく、作曲をする時にどういう考え方で曲を組み立てていくのかを見せるために、教壇に立ってから半ば即興的に添削・補作をしていくという方法を取っている。中には呻吟することもあるが、作曲家の頭の中を見せるというこの手法は効果的ではないかと考えている。

今年度の新しい試みである、自分で作った曲を観客の前で実際に音を出すという試みを、来年も是非続けていきたい。また、提出前にそれぞれの作った作品に対してアドバイスをする機会を持てたらと考えている。

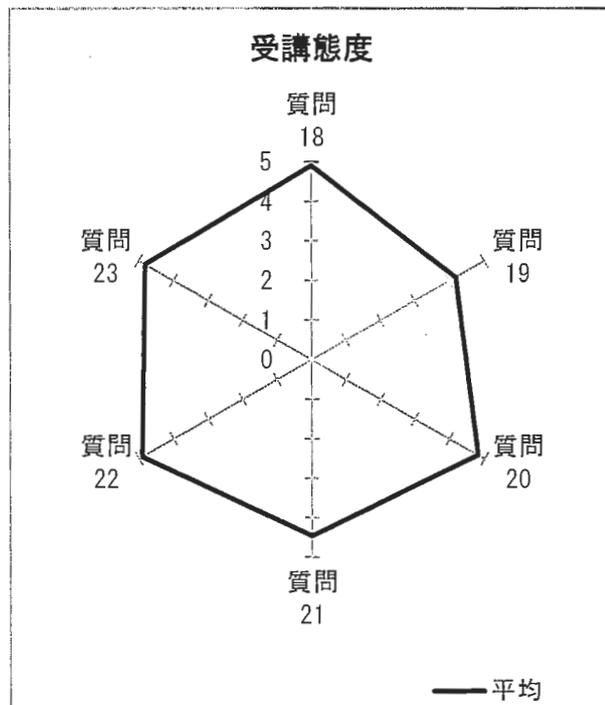
科目コード 409 (2017年度 前期)

音楽学部 音楽学科 藤重 佳久 吹奏楽実践



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.9	3.0
質問 8	4.6	4.6	5.0
質問 9	5.0	5.0	5.0
質問10	4.4	4.3	5.0
質問11	5.0	5.0	5.0
質問12	4.3	4.5	2.0
質問13	4.9	4.9	5.0
質問14	4.9	4.9	5.0
質問15	5.0	5.0	5.0
質問16	4.9	4.9	5.0
質問17	5.0	5.0	5.0
平均	4.8	4.8	4.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.2
質問20	4.8
質問21	4.5
質問22	4.9
質問23	4.8
平均	4.7

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	藤重佳久	吹奏楽実践	10名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

質問7～17において、平均値が4.3～5.0（総合平均4.8、内上位G平均4.8、下位G平均4.5）、質問18～23においては平均値が4.2～4.9（平均4.7）の範囲であった（上位G10名、下位G1名）。

・開講3年目である本年度は、前年度をふまえて座学を中心とした吹奏楽における歴史、各楽器の特徴などの知識を高めることにつとめた。単位を必要とする学生のみならず必要としない学生も高い意識でこの講義に参加しておりその姿に感銘を受けた。

・吹奏楽の知識においても個々の差があるためシラバス通りに進めることは困難を極めるが、今後可能な限り適宜に計画的に講義を進めるためにその方法と改善策を研究していきたいと考える。

## II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名： \_\_\_\_\_

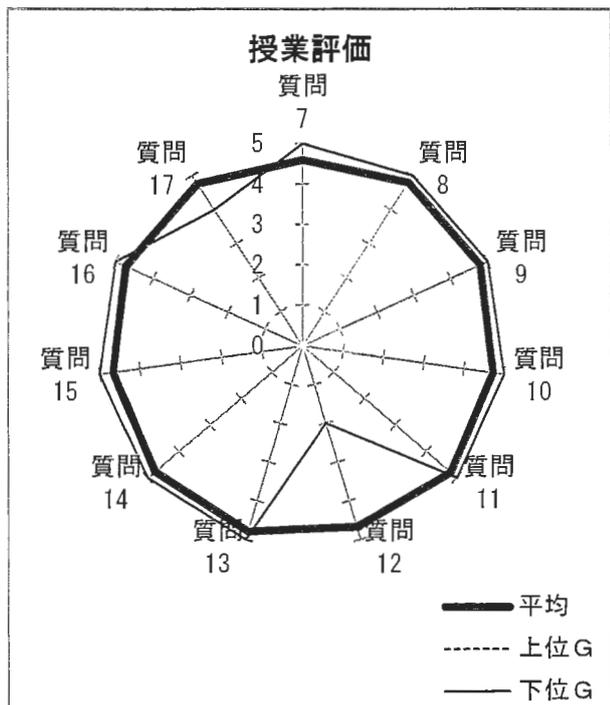
（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

・後期は、座学のみならず吹奏楽・マーチング等の本番をとおしてより実践的な演奏とともに、吹奏楽の現場（保育園、幼稚園、小・中・高等学校、大学、一般バンド等）における指導者の育成を目指して具体的な指導法を身に付けていけるよう講義を展開していく。

・上記のため個人が演奏する楽器にとどまらずさらに吹奏楽分野において幅広い知識を身につけていけるように本講義を進める。

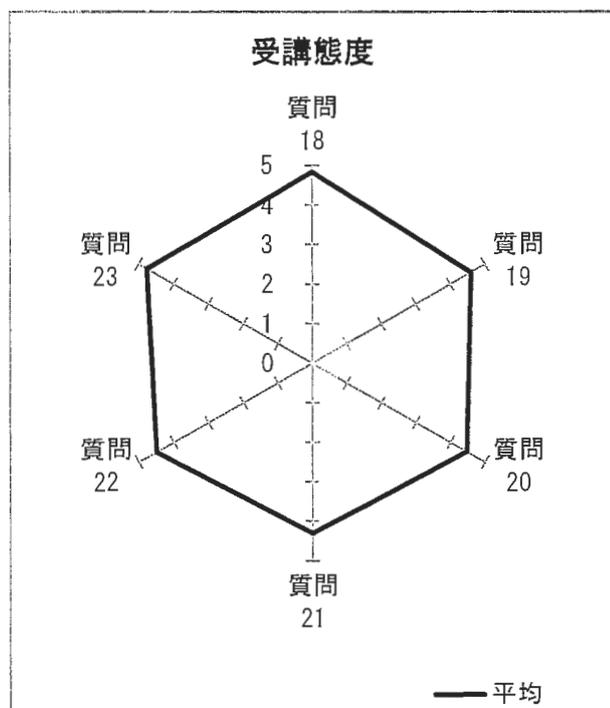
# 科目コード 410 (2017年度 前期)

音楽学部 音楽学科 三好 直英 吹奏楽 Ia IIa



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.6	5.0
質問 8	4.8	4.8	5.0
質問 9	4.8	4.8	5.0
質問10	4.7	4.7	5.0
質問11	4.8	4.8	5.0
質問12	4.7	4.8	2.0
質問13	4.8	4.8	5.0
質問14	4.8	4.8	5.0
質問15	4.7	4.7	5.0
質問16	4.7	4.7	5.0
質問17	4.8	4.8	4.0
平均	4.7	4.7	4.6

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.6
質問20	4.5
質問21	4.3
質問22	4.5
質問23	4.8
平均	4.6

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	三好直英	吹奏楽 I a, II a	30名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

・質問7～17において若干の差はあるものの、平均値が4.6～4.8（総合平均4.7、内上位G平均4.7、下位G平均4.7）、質問18～23においては平均値が4.3～4.8（平均4.6）の範囲であった（上位G28名、下位G1名）。

・楽器の初心者も多く上級者との技術差もあり吹奏楽未経験者も多いために、合奏という実技的な要素の高いこの授業においては授業をしながら全体の様子をふまえて楽曲選択、講義内容の変化を要するため、そこにより細やかな説明と配慮が必要と感じた。合奏に特化せずに教育現場において必要なスキルを身に付けてもらうように学生を中学校・高等学校の生徒にみたくて講義をおこなった。

・実技を伴う講義のために受講者が楽器演奏の習熟度に向いてしまう傾向にあるが、それだけではなく講義内容はあくまで教育現場において如何に対応していくかを実践的に学んでいく講義であることをさらに説明を加えて理解させることが必要とされる。この点においては前年度よりも前に進んだと感じられる。しかしながらアンケートの結果を見て、今後さらに楽器の演奏能力、音楽の知識度においても個人差がかなりあるためそこにより細やかな対応がもとめられると考える。

## II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：\_\_\_\_\_

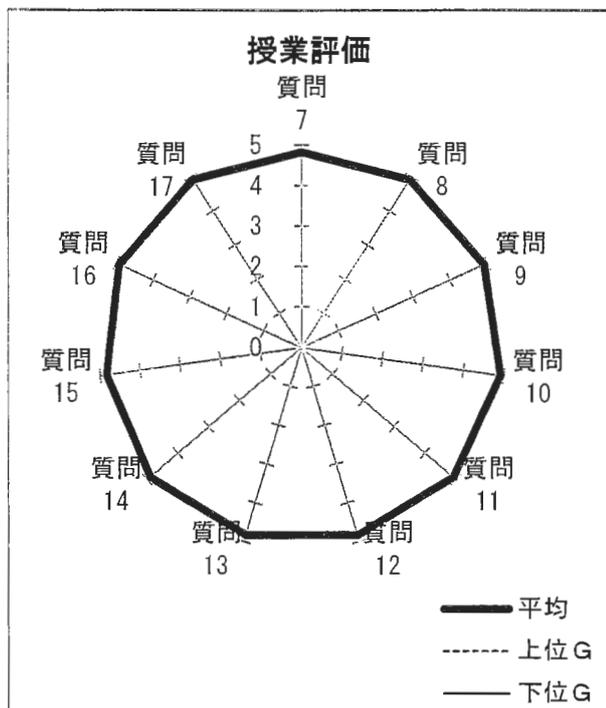
（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

・引き続き授業目的と内容の説明を繰り返すことで、演奏技術の習得だけが目的ではなく、実際の教育現場において対応できる力をつけることが目的であることをより明確化させる。

・それぞれの専門分野にも活かせる講義内容となるようにつとめていきたいと考える。また模擬授業的な形態も取り入れていきたいと考えている。より多くの楽器に触れる機会を設けて経験値を高めていきたい。

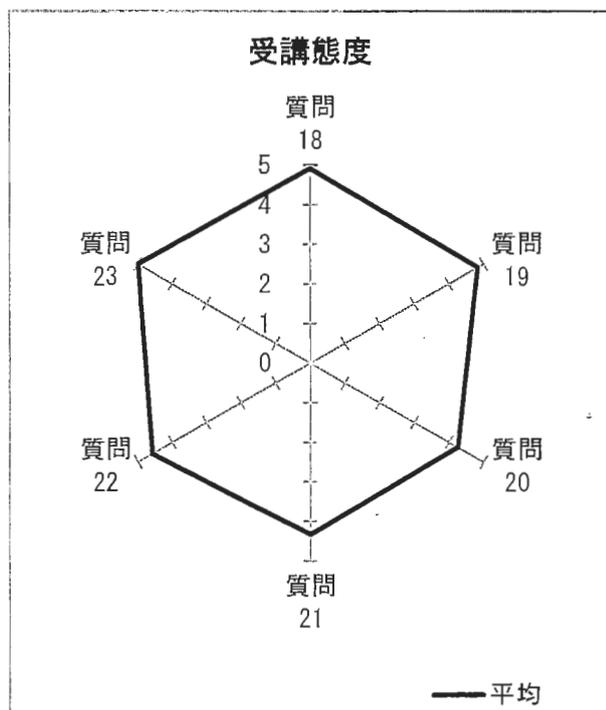
# 科目コード 419 (2017年度 前期)

音楽学部 音楽学科 椎名 雄一郎 ソルフェージュIa~IVa



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.8	4.8	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.8
質問20	4.3
質問21	4.3
質問22	4.6
質問23	5.0
平均	4.7

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	椎名雄一郎	ソルフェージュ I a～IVa	15

2017 年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

この科目は音楽学部 2～4 年生を対象としている。専攻もピアノ、声楽、管楽器、文化コース、ポピュラー音楽コースと多岐にわたっている。私自身、今年度初めてソルフェージュの授業を受け持ったため、さまざまな試みをした。

全体的にまとまりもあり、授業に対して 1 人 1 人が積極的に取り組んでいた。

評価としてはおおむね良い評価だったと感じる。すべて 4.8 または 4.9 で 4.8 のものは、シラバス、授業環境、質問機会、理解度の部分である。人数も多くはないため、なるべく多くの学生の課題状況を確認しながら進めた。そのためできる学生にとっては進度が遅いと感じた可能性がある。どうしてもできない学生を集中的に見てしまい、全体への配慮がもう少し必要であった。

## II. 2018 年度に向けての取り組み

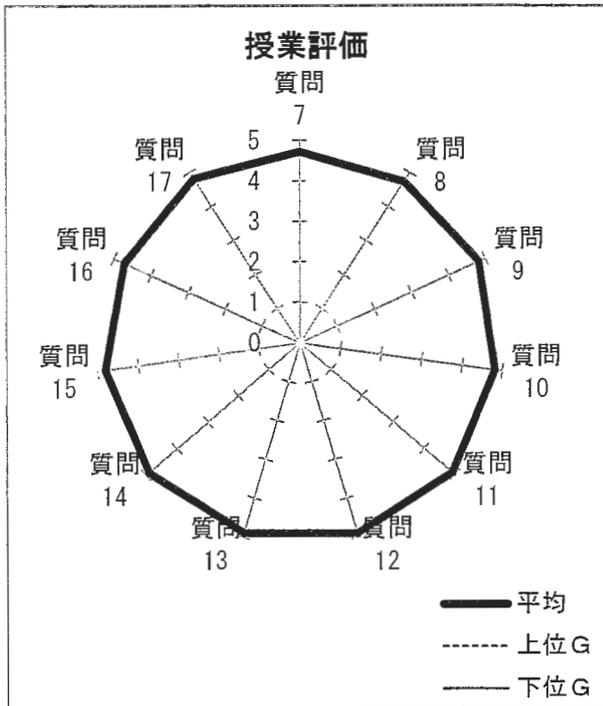
2018 年度担当予定科目名： ソルフェージュ I a～IVa

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

今年度初めての担当科目だったため、右往左往する部分もあった。来年度はより効果的な授業の進め方を検討していきたい。聴音、新曲視唱とリズムが大きな柱だが、個別の能力を伸ばすとともに、個々の全体的な音楽的能力を伸ばすことを第一として進めていきたい。

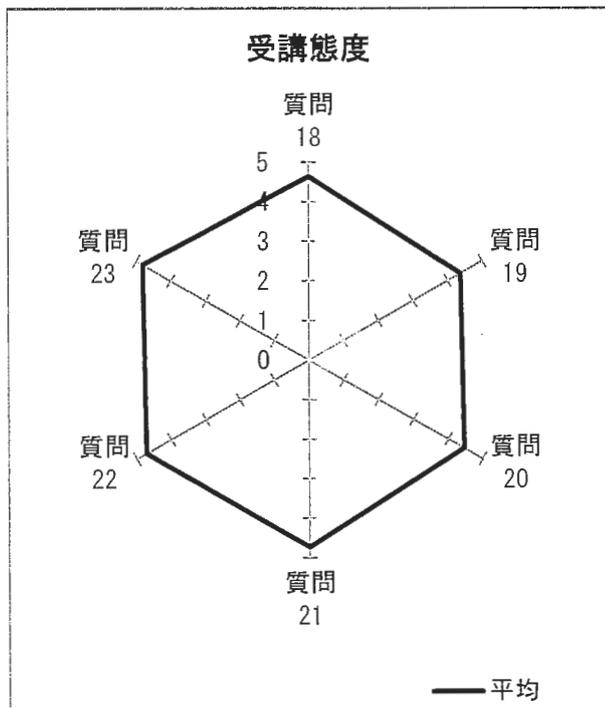
科目コード 421 (2017年度 前期)

音楽学部 音楽学科 加藤 豊 音楽理論Ⅱa



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 8	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.7	4.7	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8 : 教員の授業時間遵守  
 質問 9 : 教員の話し方  
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ  
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)  
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか  
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.4
質問20	4.5
質問21	4.7
質問22	4.7
質問23	4.8
平均	4.6

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)  
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	加藤豊	音楽理論Ⅱa	16名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

全体として平均的に理解度が高いと思われる。ただ、ここでこのグラフ、資料数値の落とし穴でもあるが、その日の講義の理解度が高くても、試験の成績が悪い学生が3名ほどいた。

つまり、その日の課題などは分からない部分が解決し、理解できたような状況であっても、実際それが完全に身につけているかの問題である。特に、この講義の定期試験当日は、講義におけるノートやもちろん教科書の持込みを禁じているので、それらの参考書なしでは問題を正確に解けない学生がいると言うわけである。

## II. 2018年度に向けての取り組み

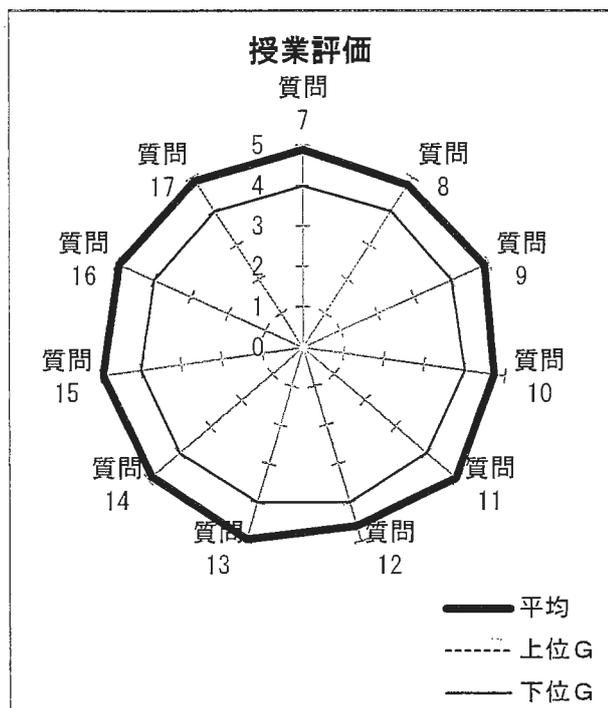
2018年度担当予定科目名： 音楽理論Ⅱa

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

さて、上記のような問題に対する対策であるが、一番効果があるのは、講義内容の区切り毎に行う小テストであろう。定期試験のように持ち込みなしで行わせ、そこまでの理解度を確認させる良い機会である。ただ、そこで理解度が低い学生（非常に）がいた場合、その学生をそのまま次の内容の学習に参加させてよいのかという問題がある。おそらく、その学生に対して、特別のプリント課題を与え、自宅での学習を通じて、理解させる方法良いのではないかと考えている

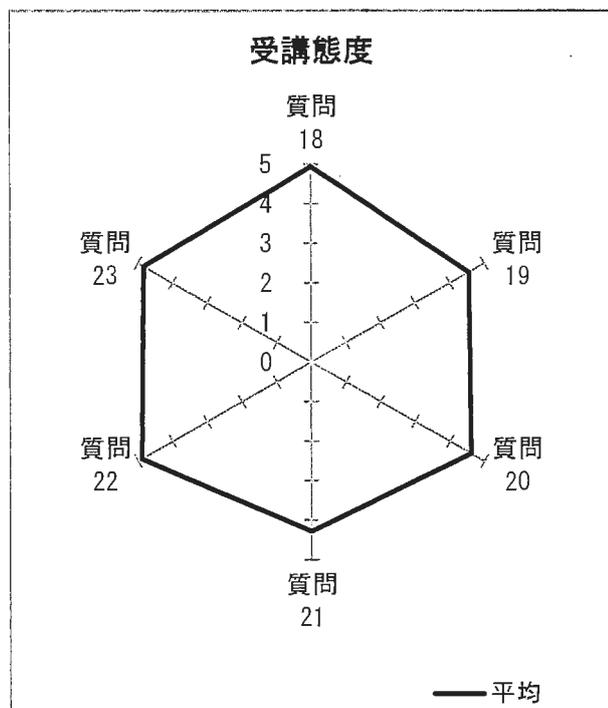
# 科目コード 422 (2017年度 前期)

音楽学部 音楽学科 安川 徹 コンピュータ研究 Ia



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	4.0
質問 8	4.8	4.8	4.0
質問 9	4.9	4.9	4.0
質問10	4.7	4.8	4.0
質問11	4.9	5.0	4.0
質問12	4.6	4.6	4.0
質問13	4.9	5.0	4.0
質問14	4.9	4.9	4.0
質問15	4.9	5.0	4.0
質問16	4.9	5.0	4.0
質問17	4.9	4.9	4.0
平均	4.9	4.9	4.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8 : 教員の授業時間遵守  
 質問 9 : 教員の話し方  
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ  
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)  
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか  
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.6
質問20	4.6
質問21	4.3
質問22	4.9
質問23	4.8
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)  
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	安川 徹	コンピュータ研究 Ia	18

2017年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

グラフをみる限り、特に問題はないと考える。

楽譜を浄書するのに必要な様々なテクニックを逐次提示しつつ、学生同士がお互いに教え合うという環境を作ることにより、お互いの知識を確認しあえるよう留意した。後期の最初の授業で復習として、課題の楽譜を1コマの授業時間内に浄書するというのを毎年行っているが、年々忘却率が減ってきているように感じる。

吹奏楽やポピュラーなど、実際に楽譜を浄書する機会が多くなりつつあるので、このあたりも授業に対する熱心さや欠席の低さなどに表れてきているように思う。

## II. 2018年度に向けての取り組み

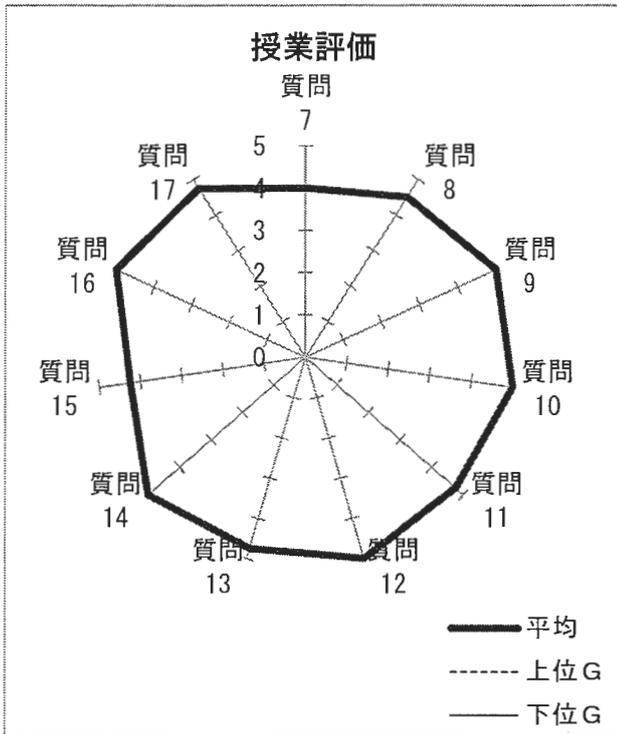
2018年度担当予定科目名：コンピュータ研究(?)

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

来年度、新カリキュラムに移行し、コンピュータ音楽関係の授業はこの一コマだけになってしまうので、浄書ソフトの習得と同時に、コンピュータと音楽の関わりについても授業の中で取り上げ、より深い知見を得るような授業を組み立てていきたいと考えている。

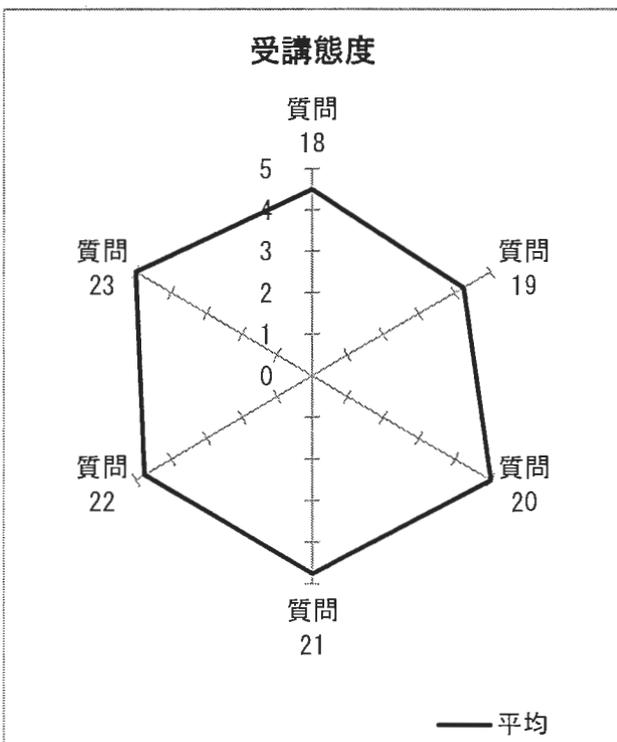
科目コード 628 (2017年度 前期)

健康生活学部 食生活健康学科 小川 彰子 学校栄養教育論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.0	4.0	#DIV/0!
質問 8	4.5	4.5	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	4.8	4.8	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.3	4.3	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.7	4.7	#DIV/0!

質問 7: 授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8: 教員の授業時間遵守  
 質問 9: 教員の話し方  
 質問10: 教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11: 教員の説明のわかり易さ  
 質問12: 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)  
 質問13: 質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14: 学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15: (自分は) 授業を理解できたと思うか  
 質問16: 授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17: 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.3
質問20	5.0
質問21	4.8
質問22	4.8
質問23	5.0
平均	4.7

質問18: (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19: 授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20: 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)  
 質問21: 授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22: レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23: 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	小川彰子	学校栄養教育論	4

2017 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

### I. 分析と評価

- ・履修者が 4 名であったため、概ね良好な評価が出たものと思われる。
- ・学校における栄養教諭の使命、仕事内容について具体的に理解することができたと評価する。
- ・楽しい授業ができたと思う。

### II. 2018 年度に向けての取り組み

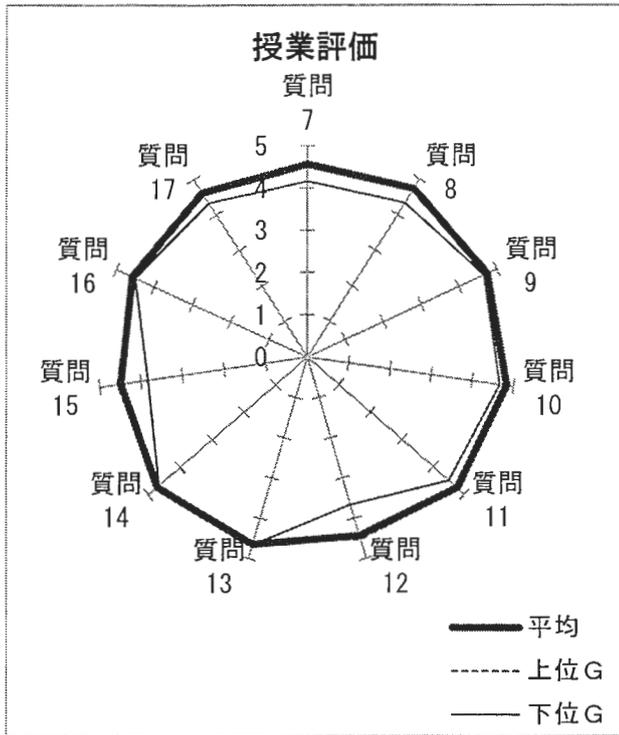
2018 年度担当予定科目名 : 学校栄養教育論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

- ・栄養教諭について理解するとともに、今後の可能性について意欲を持つ授業を展開する。
- ・有益な臨地実習、教育実習にするための知識、技能、態度を身につけさせる。
- ・演習のやり方、資料の提示など、少人数に適した授業方法を考える。

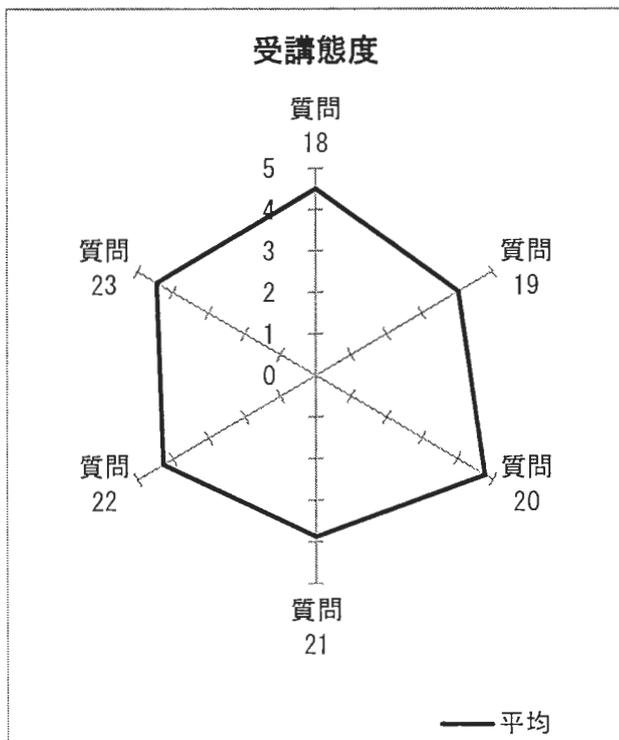
# 科目コード 655 (2017年度 前期)

健康生活学部 食生活健康学科 阿南 裕也 健康・スポーツ論(食健1)



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.6	4.2
質問 8	4.7	4.8	4.3
質問 9	4.7	4.8	4.7
質問10	4.8	4.9	4.7
質問11	4.8	4.8	4.5
質問12	4.4	4.5	3.7
質問13	4.7	4.7	4.7
質問14	4.7	4.7	4.7
質問15	4.5	4.6	3.8
質問16	4.6	4.6	4.5
質問17	4.6	4.7	4.3
平均	4.6	4.7	4.4

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.0
質問20	4.8
質問21	3.9
質問22	4.3
質問23	4.5
平均	4.3

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	阿南 祐也	健康・スポーツ論	55名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

この科目の授業評価アンケートを前回実施したときからの改善点として、各回の授業のはじめに前回の授業記録用紙に記載されたコメントの紹介や疑問・質問に回答する時間を確保した。授業内外の経験や新聞記事などから多くの質問があり、学生の積極的な姿勢がとても好印象であった。自身の経験や身近な疑問から授業内容につなげることができたのは良い点だと考える。授業評価アンケートについては今回もネガティブな選択肢（どちらかといえばそう思わない、そう思わない）を回答した学生はおらず、おおむね良好な結果であったといえる。マークシートの裏面にコメントを書いてくれた学生も多く、とても励みになった。今後も良い部分を更に伸ばす工夫をし、試行錯誤しながら教養科目として果たすべき役割を考えていきたい。

## II. 2018年度に向けての取り組み

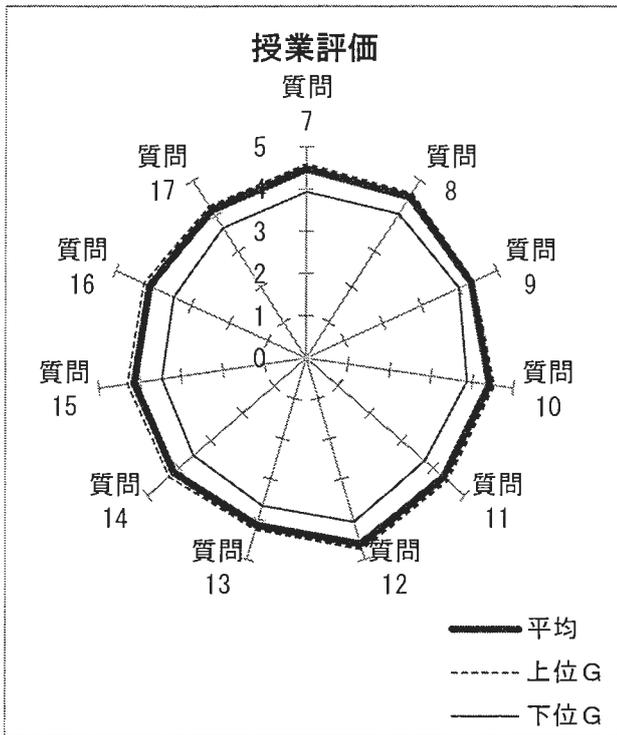
2018年度担当予定科目名： 健康・スポーツ論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

授業のはじめに前回の授業記録用紙について紹介する時間が長くなる回があったので、時間配分と紹介する量を調整しながら授業への興味関心と理解度を高めていきたい。

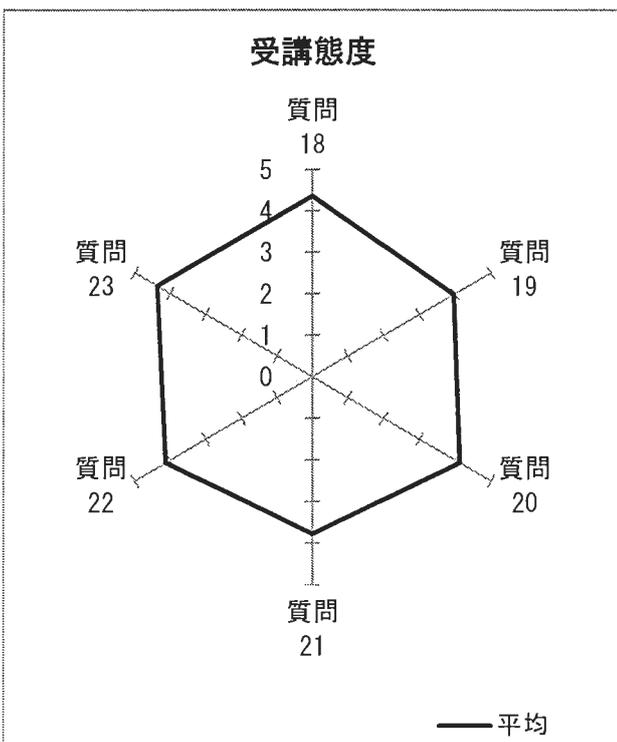
# 科目コード 656 (2017年度 前期)

健康生活学部 食生活健康学科 松永 知恵 生命の科学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.6	3.9
質問 8	4.5	4.6	4.1
質問 9	4.3	4.4	4.0
質問10	4.4	4.5	3.9
質問11	4.3	4.5	3.7
質問12	4.6	4.8	4.1
質問13	4.2	4.3	3.7
質問14	4.2	4.3	3.5
質問15	4.2	4.3	3.5
質問16	4.1	4.3	3.5
質問17	4.2	4.3	3.7
平均	4.3	4.4	3.8

質問 7: 授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8: 教員の授業時間遵守  
 質問 9: 教員の話し方  
 質問10: 教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11: 教員の説明のわかり易さ  
 質問12: 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)  
 質問13: 質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14: 学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15: (自分は) 授業を理解できたと思うか  
 質問16: 授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17: 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.0
質問20	4.1
質問21	3.8
質問22	4.1
質問23	4.4
平均	4.1

質問18: (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19: 授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20: 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)  
 質問21: 授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22: レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23: 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活	食生活健康	松永 知恵	生命の科学	89

2017 度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

全学教養科目の選択科目なので興味がある学生もいれば、卒業単位のためだけに履修している学生もいたと思われる。しかも今年を受講者数は非常に多く、学生の授業に対するモチベーションには大きな差があったと推測される。そのような状況であったにもかかわらず、全体的に良い評価が得られたのは、スライドや配布プリント、科学的な動画、板書などを随時取り入れて、わかりやすい授業を心がけた結果と言える。しかし、質問 11、15、16、は上位 G と下位 G に差がみられた。教員の説明のわかりやすさに差が見られるということは、基礎知識がない学生にとって本科目の授業は難しいと感じていたのだと思う。授業の説明はもっと噛み砕いて、基礎の基礎から説明する必要性をあらためて実感した。

## II. 2018 年度に向けての取り組み

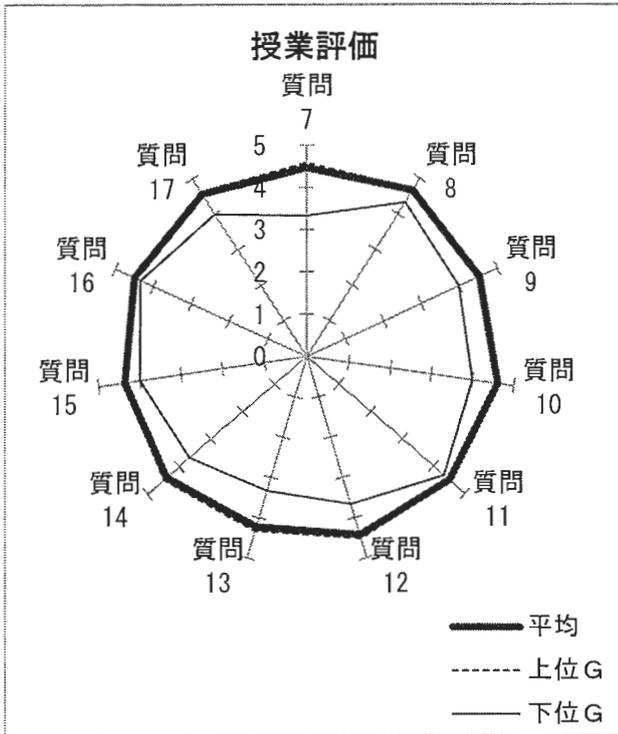
2018 年度担当予定科目名 : 生命の科学

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

毎年、高校生のときに理科系の科目を学ばずに入学してきて、本科目を履修する学生がいる。また、「かがく」という言葉自体に苦手意識を持つ学生もいる。単に卒業単位のためだけに履修している学生も多い。教養科目を受講する学生の授業に対するモチベーションは、年々格差が大きく広がっているように感じる。それを感じさせるのは授業中のおしゃべりである。今年は例年になくおしゃべりをする学生が目立ち、注意をしても静かになるのは短時間でしかなく、度々おしゃべりを再開していた。授業を真剣に受けたい学生からのこの件に関しての不満も多くあり、毎回注意や興味を引く工夫などをして一向に改善しなかった。自分の指導不足を感じるし、同じような注意喚起では効果がない、次年度への検討課題である。今年度の結果を踏まえ、理解度の把握や授業の進め方、わかりやすい教材の作成など、今後も工夫を続け、充実した教育内容にしたい。

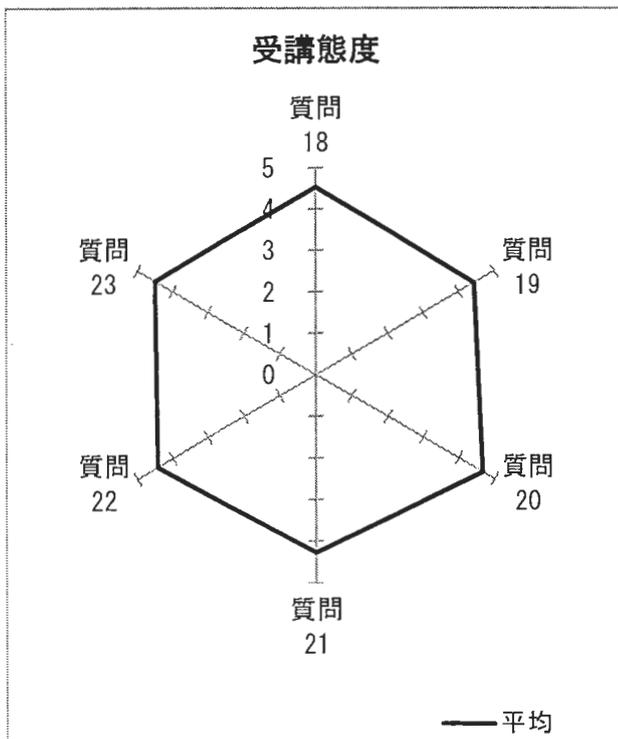
科目コード 657 (2017年度 前期)

健康生活学部 食生活健康学科 上江洲 香代子 食べ物と栄養



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.6	3.3
質問 8	4.7	4.7	4.3
質問 9	4.5	4.6	4.0
質問10	4.6	4.7	4.0
質問11	4.5	4.5	4.3
質問12	4.4	4.5	3.7
質問13	4.2	4.3	3.3
質問14	4.4	4.5	3.7
質問15	4.4	4.4	4.0
質問16	4.5	4.5	4.3
質問17	4.6	4.6	4.0
平均	4.5	4.5	3.9

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.4
質問20	4.7
質問21	4.3
質問22	4.4
質問23	4.5
平均	4.5

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	上江洲香代子	食べ物と栄養	40名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

教養科目である。授業評価は平均が各項目 4.2～4.7 と、昨年とほぼ同様である。平均と上位グループはグラフもほぼ円形を示している。下位グループは 3.3～4.3 で 0.1 ポイント低下した。今年度使用教室の機器は授業内容の説明に便利だと思われたが、特にその効果は現れていないようである。

学生自身の受講態度の評価は平均 4.3～4.7 で、昨年より 0.3 ポイント程度上昇した。専門科目と異なり、教養科目でいかに興味・関心・意欲を引き出し、理解してもらうか、さらなる努力を要すると考える。

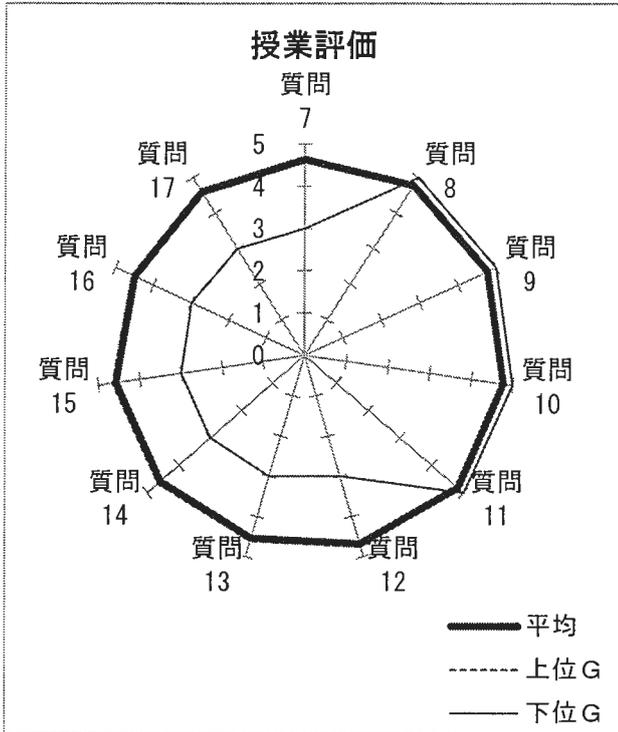
## II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：食べ物と栄養

わかりやすい授業説明のためにさらなる工夫をするつもりである。教員の話し方の改善を常に心掛ける。説明の仕方や板書方法を工夫する。OHCや教材用DVDなどの映像をこれまで以上に利用し、また世の中の最新情報なども取り入れて学生の授業への興味や関心を喚起し、さらに理解を深めてもらうようにしたいと考える。一方的な授業にならないように、質疑応答などを工夫し、学生とコミュニケーションを取りながら授業を進める。毎回のコメントカード提出も続けて、さらに効果的な活用方法を工夫する。

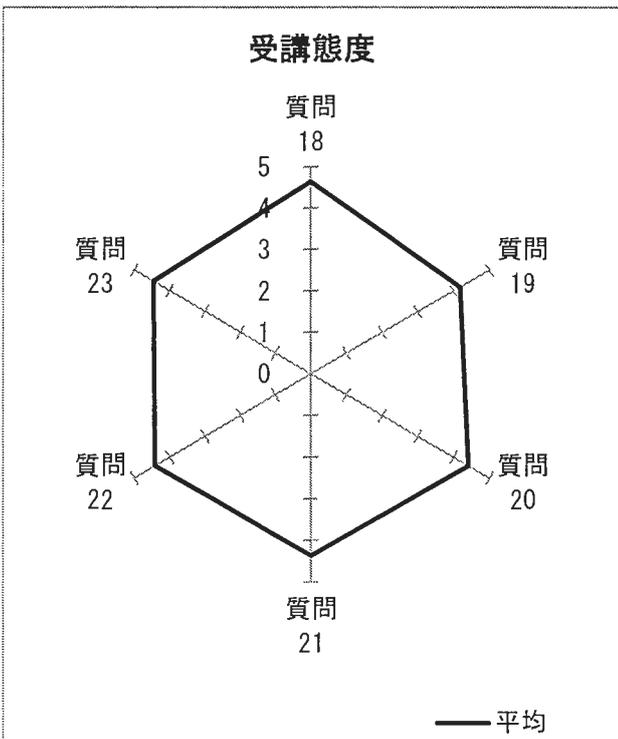
科目コード 658 (2017年度 前期)

健康生活学部 食生活健康学科 二瓶 浄幸 キリスト教学 I (文現・人間1)



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.6	4.7	3.0
質問 8	4.8	4.8	5.0
質問 9	4.8	4.8	5.0
質問10	4.8	4.8	5.0
質問11	4.8	4.8	5.0
質問12	4.7	4.8	3.0
質問13	4.5	4.6	3.0
質問14	4.6	4.7	3.0
質問15	4.6	4.7	3.0
質問16	4.5	4.6	3.0
質問17	4.6	4.7	3.0
平均	4.7	4.7	3.7

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.2
質問20	4.4
質問21	4.4
質問22	4.4
質問23	4.5
平均	4.4

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	二瓶淨幸	キリスト教学 I (文現・文人)	22 名

2017 度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

### I. 分析と評価

昨年実施分と比較すると授業評価の平均は 4.7 となり 0.1 改善された。またバランス的にもすべての項目が 4.5~4.8 の範囲に収まっているので、わずかながら成果があったと捉えている。ただ、今回は下位 G の数値が極端に振れていることが特徴である。具体的には、下位 G の質問 8、9、10、11 は 5.0 だが、質問 7、12、13、14、13、16、17 は 3.0 に留まった。上位 G ではすべての項目が 4.6~4.8 に収まり項目間の数値差は僅か 0.2 の範囲であるから、下位 G の数値差 2.0 はいかにも大きい。このような結果はこれまで経験したことがない。そこで詳細なデータを参照し該当人数を参照したところ、下位グループはすべての項目で度数が 1 であることが判明した。つまり、下位グループは 1 名ということで受講生の 5% である。これまで下位 G が 1 名のみという例はないが、質問 7、12、13、14、13、16、17 は、いずれも授業理解等に関わる重要な項目なので、大切なメッセージとして真摯に受け止めている。また全体平均から確認できる課題としては、質問 7「授業の目標説明とシラバスに沿った実施」のみが -0.1 後退している。質問 7 について振り返ると、最初の授業で導入プリントを配布して目標やシラバスについて説明し、授業の進捗についても前期は予定通り終了したので具体的な要因は思い当たらないが、いずれにしても受講者にとっては充分でなかったということであるから、その点については後期授業で補いたい。

また、学生の受講態度の全体平均は 4.4 と昨年と同じ結果でレーダーグラフの形状も、ほぼ正六角形である。昨年より数値的に後退した項目は質問 19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」が -0.2、質問 22「レポート・課題等に積極的に取り組んだか」が -0.1 となっている。この 2 項目については後期授業の際注目し、改善を目指す取り組みたい。一方、受講態度の内これまで継続的に課題としてきた質問 21 は +0.1 とわずかに改善しているので、これまでの取り組みに対する一定の成果と捉えている。

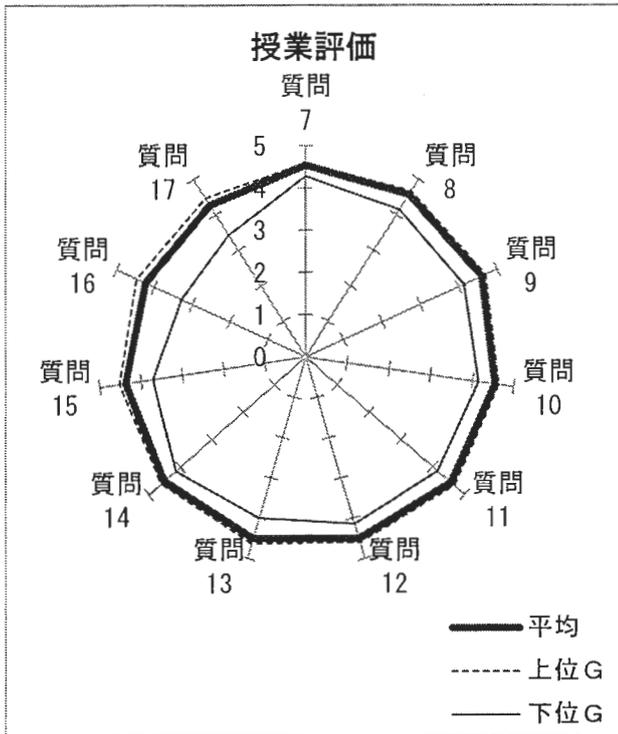
### II. 2018 年度に向けての取り組み

2018 年度担当予定科目名 : \_\_\_\_\_

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

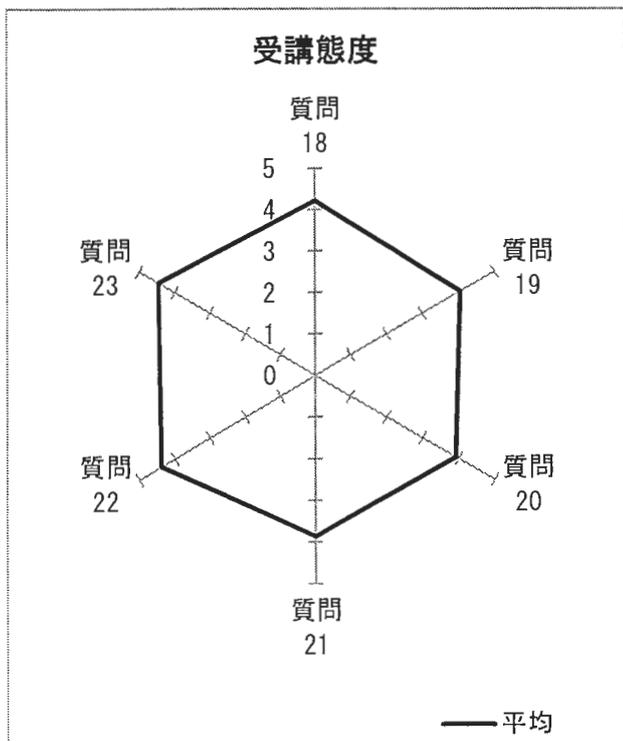
科目コード 660 (2017年度 前期)

健康生活学部 食生活健康学科 二瓶 淨幸 キリスト教学Ⅲ(音楽3・生デ3)



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.6	4.3
質問 8	4.6	4.7	4.1
質問 9	4.6	4.7	4.1
質問10	4.5	4.6	4.1
質問11	4.6	4.7	4.1
質問12	4.5	4.6	4.1
質問13	4.5	4.6	4.0
質問14	4.5	4.6	4.1
質問15	4.4	4.5	3.7
質問16	4.2	4.5	3.3
質問17	4.3	4.5	3.4
平均	4.5	4.6	4.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.2
質問19	4.1
質問20	3.9
質問21	3.9
質問22	4.4
質問23	4.5
平均	4.1

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	二瓶浄幸	キリスト教学Ⅲ(音・生デ)	36名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

通年開講のキリスト教学Ⅲ前期分アンケートは、2010年以降実施していない。そこで、7年前の集計結果を参照しながら分析をすすめる。ただ、その間アンケートの質問項目が変更されているので、比較可能な項目を中心に検討したい。授業評価の全体平均は4.5と数値的には変わらない。しかし、2010年度の上位Gと下位Gは数値的に僅差だったが、今回は全体平均で0.8と拡大している。授業内容を年ごとに見直し丁寧な説明を心がけながら改善を目指してきたにもかかわらず、両者の数値が開いたことは大きな課題と受け止めている。今回の下位Gは項目ごとに異なるが平均7名前後であり、受講者全体の約20%である。ひとつには、受講者の課題に対する取り組みや提出状況が次第に開いてきていることと関連している可能性がある。また、質問項目が変更されたことによって、受講者の実情が反映しやすくなったことが影響しているのかもしれない。いずれにしても、受講者の理解度の差を考慮した授業展開と課題取り組みの指導を一層綿密に行う必要があると感じている。個別の項目については、質問9「教員の話し方」が2010年(旧アンケート質問11「教員の話し方」)の4.9に対して、今回は4.5と-0.4後退した点が目立つ。関連すると思われる質問11「教員の説明のわかりやすさ」は4.6で、2010年の同結果(旧質問17「授業の難易度」)の4.4から0.2改善しているの、その関連を見出せないでいる。いずれにしても、後期授業では明瞭で丁寧な説明を心がけたいと考えている。

一方受講態度の平均は4.4であり全ての項目が4.3~4.6に収まっている。2010年実施分は平均4.2だったので、質問内容が若干異なっているとしても概ね改善したと考えている。加えて従来から改善の重点として取り組んできた質問21「授業の予習・復習をおこなったか」は4.2と、2010年の3.1から大きく改善がみられた。また、2010年度には3点台に留まっていた項目が3つあったのに対して、今回は最低が質問19の4.3だった。受講者が予習・復習に取り組んでいるという実感が大きくなっている点は評価できるが、前述したように受講者の課題取り組みの差が増大している現状と関係づけて総合的に捉える必要があると考えている。

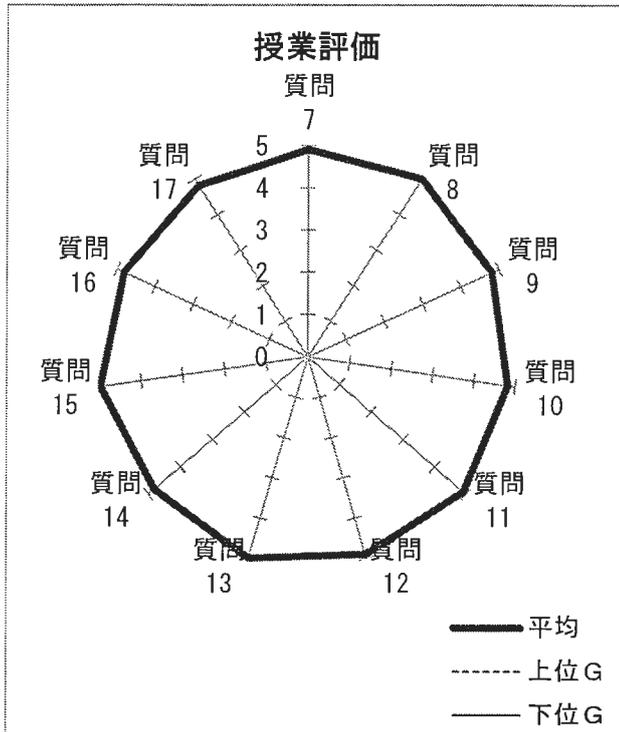
## II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：\_\_\_\_\_

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

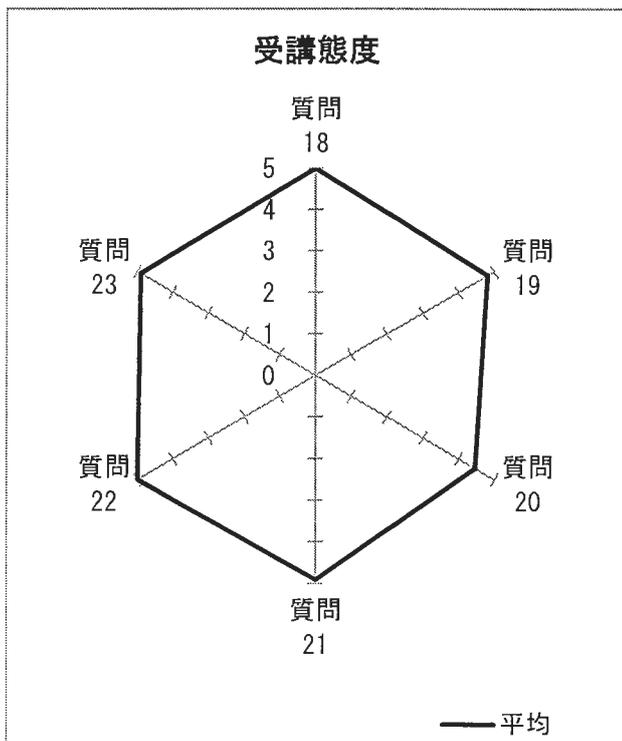
科目コード 664 (2017年度 前期)

健康生活学部 食生活健康学科 福島 健一郎 化学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7： 授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8： 教員の授業時間遵守  
 質問 9： 教員の話し方  
 質問10： 教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11： 教員の説明のわかり易さ  
 質問12： 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）  
 質問13： 質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14： 学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15： （自分は）授業を理解できたと思うか  
 質問16： 授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17： 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.8
質問20	4.5
質問21	4.9
質問22	5.0
質問23	4.9
平均	4.8

- 質問18： （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19： 授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20： 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）  
 質問21： 授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22： レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23： 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	福島健一郎	化 学	12

2017年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

授業評価平均値 4.9 という数字は、存外の高評価であった。

このことについては、履修者が 12 名と少ないので、信頼性・客観性に大変疑問が残ると考えるのが妥当であろう。

シラバス内容から受講希望者は看護学部学生が多数を占めると思われたが、予想に反して各学科（看護学科 2 名、子ども学科 6 名、英語学科 2 名、生活デザイン学科 2 名）から広く学生が受講していた。

この要因は、昨年度から科目「化学」の受講対象学科が拡大されたためだと、解釈している。

一方で、受講者がシラバスの学習内容や到達目標を理解して受講していたのか、疑問でもあった。

ところが、受講学生は学習意欲が十分高く感じられたので、内容をやや平易にし、進度も遅くして授業を展開することにした。

看護学科学生の「栄養生化学」学習へと繋がる内容であったが、その中で、どの学科学生へも関心が高いと思われる内容を精選して授業を行った。

この講座を受講した学生の中には、自然科学の教養を将来の進路に生かしたいと考えているものも見られた。そういった学生の要求を満足させることも求められているので、一般的な教養として、味気ないながらも化学計算を学習に盛り込むことにした。

## II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：       化 学      

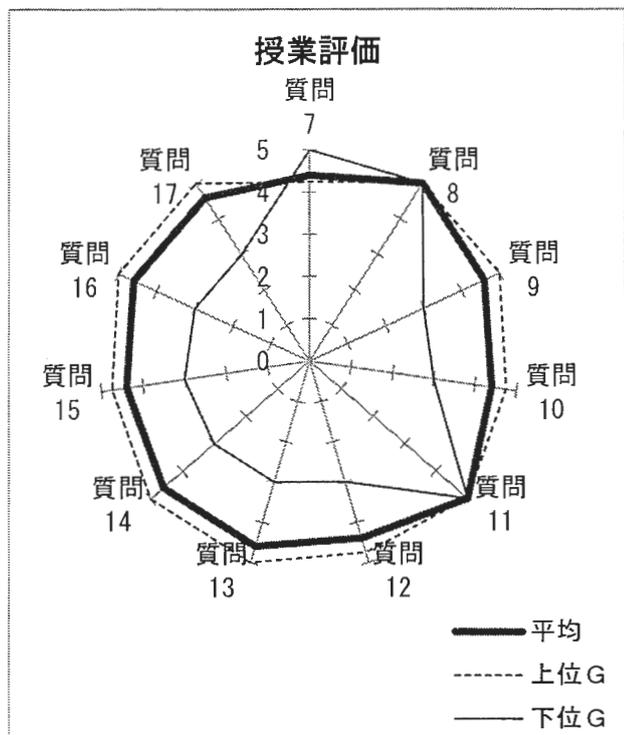
次年度は、学生が興味・関心を示すと思われる日常的な学習内容を更に充実させ、さらに豊富に関連ある資料を取り揃え、映像なども駆使し、演習などの時間も多く設定したい。

さらに、毎時間、授業の目的・内容を丁寧に説明し、一方では機会あるごとに、内容・到達目標を学生に確認して学習展開を行いたい。

そして、毎時間真摯に授業を振り返り、その反省に立って明日の授業に生かしたい。

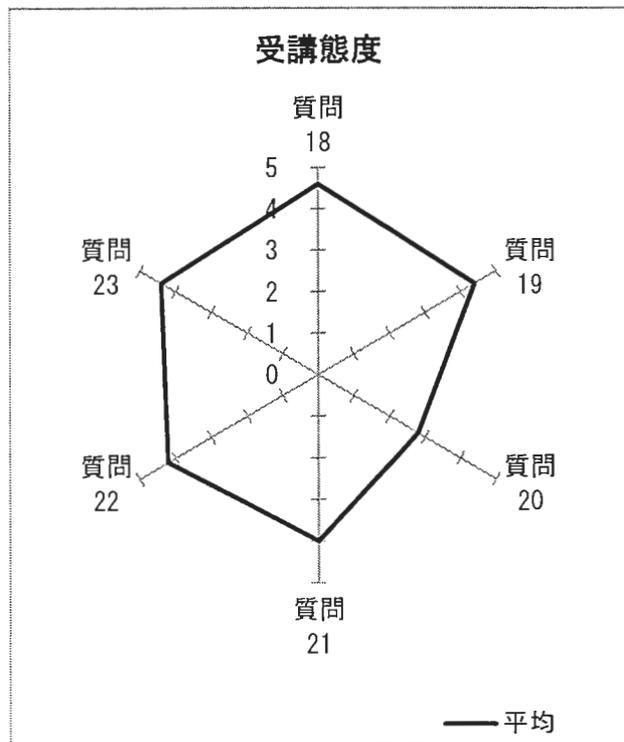
# 科目コード 666 (2017年度 前期)

健康生活学部 食生活健康学科 阿部 麗 生涯スポーツ実技 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.4	4.3	5.0
質問 8	5.0	5.0	5.0
質問 9	4.6	5.0	3.0
質問10	4.4	4.8	3.0
質問11	5.0	5.0	5.0
質問12	4.4	4.8	3.0
質問13	4.6	5.0	3.0
質問14	4.6	5.0	3.0
質問15	4.4	4.8	3.0
質問16	4.6	5.0	3.0
質問17	4.6	5.0	3.0
平均	4.6	4.9	3.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.4
質問20	2.8
質問21	4.0
質問22	4.2
質問23	4.4
平均	4.1

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	阿部 麗	生涯・スポーツ実技 I	6

2017 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

平均値は 4.6 と概ね良好な評価であったと考えられる。しかしながら、問 7,10,12,15 の 4 項目が平均値 4.4 と低い値を示した。これらのうち、質問 10、12、15 の上位 G の回答は【そう思う】、【どちらかといえばそう思う】で評価は高かったものの、下位 G の度数 1 の【どちらともいえない】の回答が平均値を下げていた。また、下位 G は、上記以外の他項目でも【どちらともいえない】と回答をしていた。しかしながら、質問 11「教員の説明のわかりやすさ」では、全員【そう思う】の回答を得ることができているため、少人数体制の授業においては、より細やかなコミュニケーションをとることを意識し、興味・関心・意欲を引き出せるよう、指導方法を工夫していきたい。

質問 7 においては、上位 G でも平均値 4.3 と低い値を示した。目標説明については行っているため、「シラバスに沿った実施」の点で値を下げたと考えられる。実際のところ、シラバスではグループワークを行い、4 回の授業を 1 サイクルとして捉え展開する授業構成としていたが、予想よりも受講者数が少なかったこと、また、欠席者が多かったことから、1 回の授業内でサイクルを回すことが複数回あった。シラバスに沿った展開ができなかった点が、平均値の低下に繋がったと考えられる。

今後、選択履修科目で少人数の開講も予測される場合には、人数に応じて柔軟に対応できる授業構成を検討していきたいと思う。

## II. 2018 年度に向けての取り組み

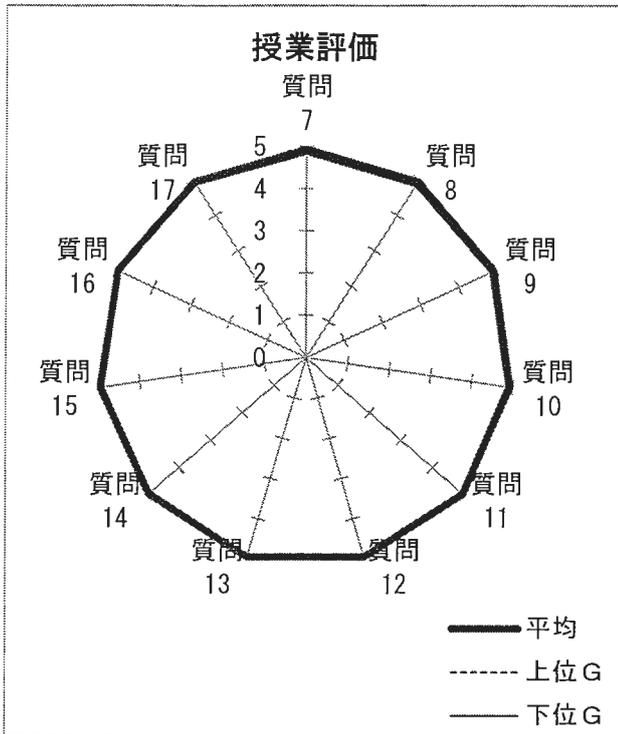
2018 年度担当予定科目名 : \_\_\_\_\_

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

次年度の開講はないが、今後、少人数制の授業を担当する場合は、人数に柔軟に対応できる授業構成としたい。また、一人ひとりの学生と細やかなコミュニケーションを取り、受講者の興味・関心・意欲を引き出せるよう、健康やスポーツに関するトピックスの整理をしておきたい。

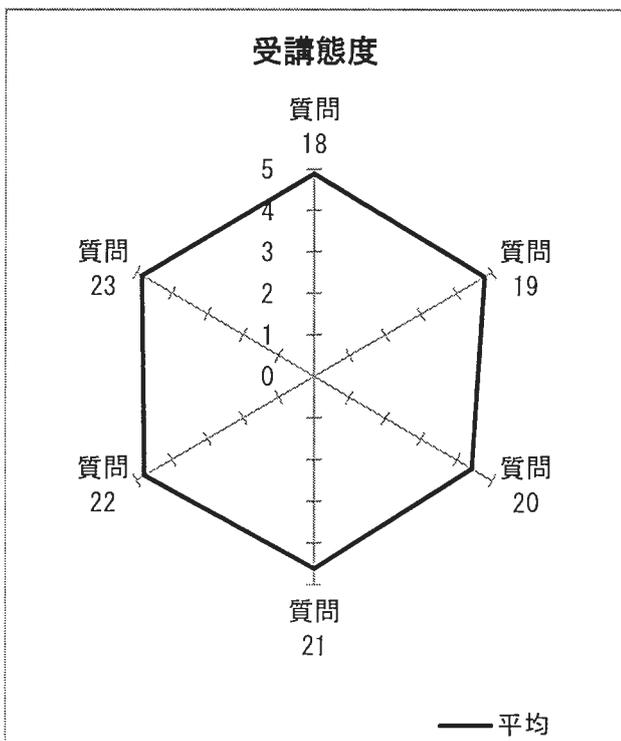
# 科目コード 667 (2017年度 前期)

健康生活学部 食生活健康学科 阿部 麗 健康・スポーツ実技Ⅱ(英語2)



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	5.0
質問 8	4.9	4.9	5.0
質問 9	4.9	4.9	5.0
質問10	4.9	4.9	5.0
質問11	5.0	5.0	5.0
質問12	5.0	5.0	5.0
質問13	5.0	5.0	5.0
質問14	5.0	5.0	5.0
質問15	5.0	5.0	5.0
質問16	5.0	5.0	5.0
質問17	4.9	4.9	5.0
平均	4.9	4.9	5.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.8
質問20	4.4
質問21	4.6
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.7

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	阿部 麗	健康・スポーツ実技Ⅱ	44

2017年度前期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

平均値は4.9と良好な評価であった。評価に繋がった要因は2つあると考えている。1つ目は、受講態度の質問項目である質問18,19,23の平均値が4.8~4.9と高く、受講生が主体的かつ積極的に課題に取り組む意識が高かったこと。2つ目は、他者と協力して課題に取り組むことを好む受講生が多かったこと。以上2点から、クラスのレディネスが高かったことが今回の数値に繋がったと考えている。

受講態度において、数値が低かった項目が2つある。質問20,21の欠席回数と授業の予習・復習についてである。欠席回数については、受講生の約6割が欠席0回、約3割が欠席1回、残りの約1割が欠席2-3回であった。1割の欠席が多い受講生に関しては、積極的にコミュニケーションを取り、状況把握に努めたいと思う。予習・復習に関しては、課題の習熟度に合わせて、スキルや習得のための練習方法を提示し、予習・復習の意欲喚起を促したい。また、トレーニング室にある視聴覚教材がダンス系のものが多いため、学生のニーズに応じた教材（ヨガ等）の導入も検討をしたい。

## II. 2018年度に向けての取り組み

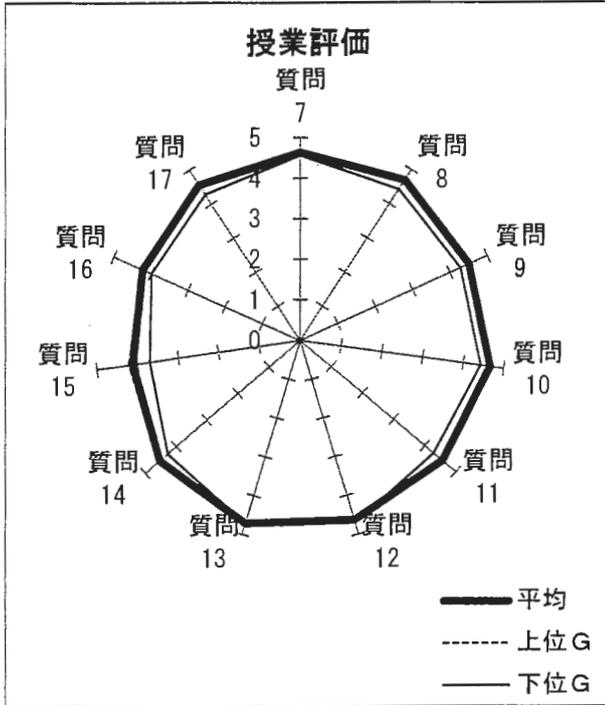
2018年度担当予定科目名：健康・スポーツ実技Ⅱ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

上記項目の下線部について、取り組んでいきたい。

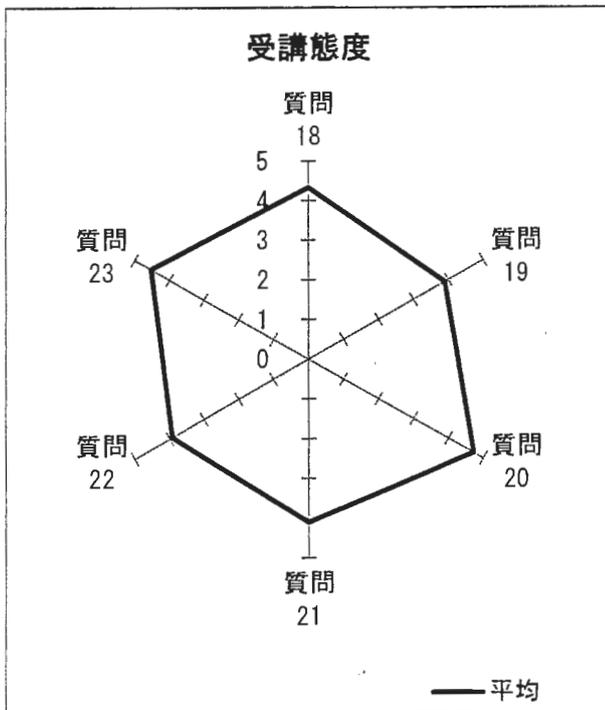
# 科目コード 813 (2017年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 田淵 久美子 教育原理(子)



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.7	4.6
質問 8	4.7	4.8	4.4
質問 9	4.5	4.6	4.3
質問10	4.7	4.7	4.4
質問11	4.6	4.6	4.3
質問12	4.6	4.6	4.7
質問13	4.7	4.7	4.7
質問14	4.5	4.6	4.3
質問15	4.1	4.2	3.7
質問16	4.2	4.3	4.0
質問17	4.6	4.6	4.3
平均	4.5	4.6	4.3

質問 7: 授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8: 教員の授業時間遵守  
 質問 9: 教員の話し方  
 質問10: 教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11: 教員の説明のわかり易さ  
 質問12: 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)  
 質問13: 質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14: 学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15: (自分は)授業を理解できたと思うか  
 質問16: 授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17: 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	3.9
質問20	4.7
質問21	4.1
質問22	3.9
質問23	4.5
平均	4.3

質問18: (自分は)授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19: 授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20: 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)  
 質問21: 授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22: レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23: 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担 当 者 名	科 目 名	履 修 者 数
健康生活学部	子ども学科	田淵久美子	教育原理	39

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

受講態度上位グループと下位グループで、授業の理解に関わる項目についての差が大きい。また理解度については、上位グループの学生も点数が低かった。ここ数年、ほぼ同じ内容の講義をしているが、下位グループでも3点台の評価はこれまでなかったと思う。講義をしている時の実感としては、理解度に差が大きいということであり、講義へのコメントも非常に良く書いてテストの点数も良かった学生とそうでない学生との差が大きい。

## II. 2018年度に向けての取り組み

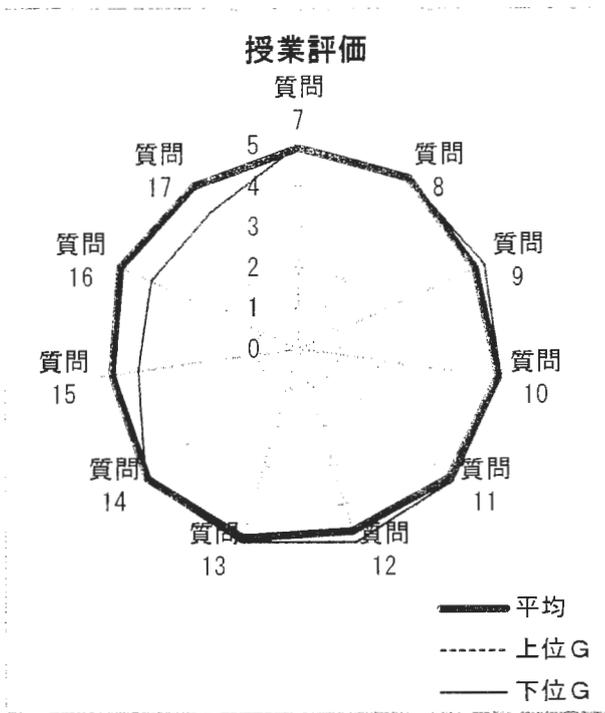
2018年度担当予定科目名：          教育原理          

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

学生の理解度を上げるためには、基礎学力を上げることが必要であると思う。教育原理の内容は、思想や歴史であり、それほど内容を簡略化できない。また、学力格差をどう埋めるかも大きな問題である。これは、私の力だけでできることではないと思う。

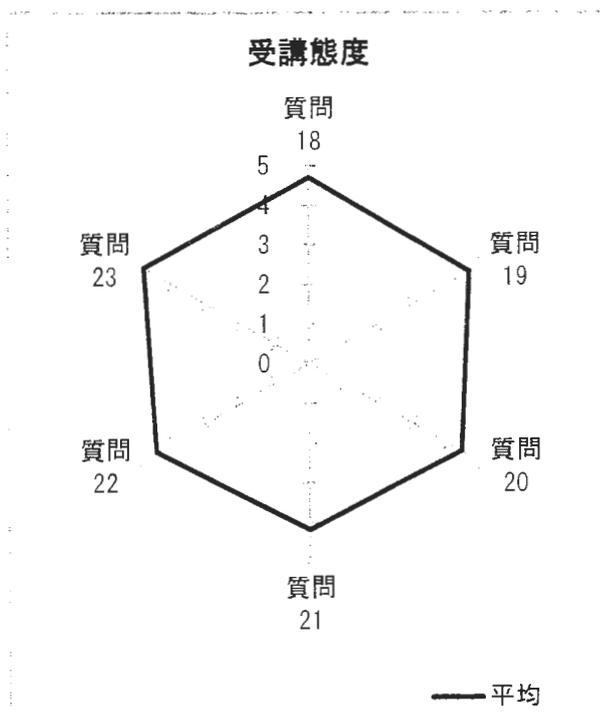
# 科目コード 985 (2017年度 前期)

看護学部看護学科 崔 炳一 キリスト教学 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	5.0
質問 8	5.0	5.0	5.0
質問 9	4.8	4.8	5.0
質問10	4.9	4.9	5.0
質問11	4.9	4.9	5.0
質問12	4.7	4.7	5.0
質問13	4.9	4.9	5.0
質問14	4.9	4.9	5.0
質問15	4.6	4.7	4.0
質問16	4.8	4.9	4.0
質問17	4.8	4.8	4.0
平均	4.8	4.9	4.7

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.6
質問20	4.4
質問21	4.2
質問22	4.5
質問23	4.8
平均	4.5

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担 当 者 名	科 目 名	履 修 者 数
音楽学部	音楽学科	崔 炳一	キリスト教学 I	18名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

今回の評価を総合的に言えば、やや予想通りの評価を得たと思う。第一回目の授業のとき、シラバス、また授業の内容、進み方などの授業について行った説明はあったが、それが効果的ではなかったと思う。授業に臨む姿勢、学生としてのマナーについては、オリエンテーションのときに説明をしたため、時間を割いて指導を行うことは特にしていない。基本的なマナーに関しては、学生本人に任せているが、今後は、指導の必要性があると思う。

今回の調査からわかったのは、授業の難易度をもう少し下げる必要性である。大学1年生ではあるが、学生の教養のレベルが高いと評価しそれに合わせた授業を行ったため、学生にとって内容的には難しかったと思われる。また、教科書は指定しているが、教員の講義による授業であったため、キリスト教になじみのない学生たちには、用語—キリスト教学に関する特別用語など—上の問題が生じたと思う。イラストや図による説明などを盛り込むこと、さらにはテキストとなれるようなプリントなどを配って授業を行うことができれば、もう少し学生にとって親しみを感じられるわかりやすい授業になると思っている。これらのことは今後の課題としたい。

今回の評価とは別として、もう一つの課題はキリスト教を学ぶことに不安や抵抗を感じて学生が比較的に取り組みやすい授業環境をつくることなど、できるだけ細やかな配慮を続けることである。また、授業に学生自身が興味をもって臨めるように、予習などを促したい。

## II. 2018年度に向けての取り組み

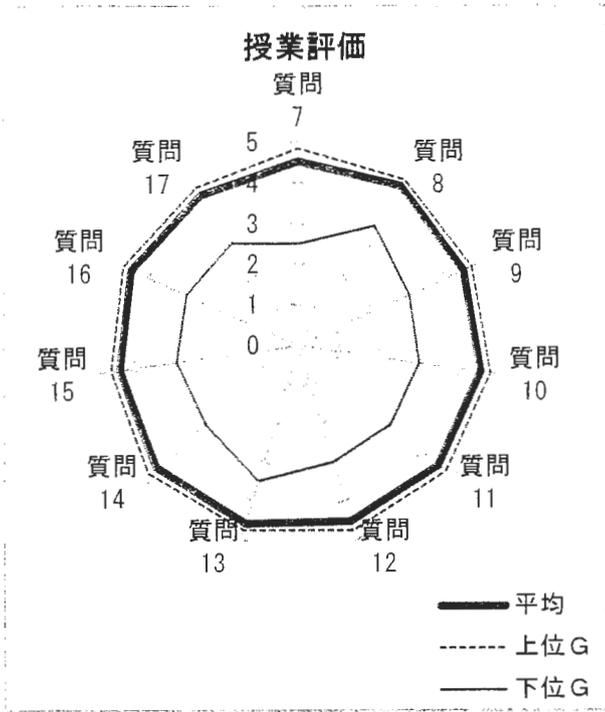
2018年度担当予定科目名： キリスト教学 I

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

1. 学生の学習能力に合わせ、適切な視聴覚教材を有効に使用する。
2. 単元ごとにレジメや関連資料を配布し、図を描いた説明を含め、板書技術の向上を目指す。
3. 難解なキリスト教的用語の使用を避け、わかりやすいことばで説明する。
4. 新しい知識および最近の研究などを紹介する。

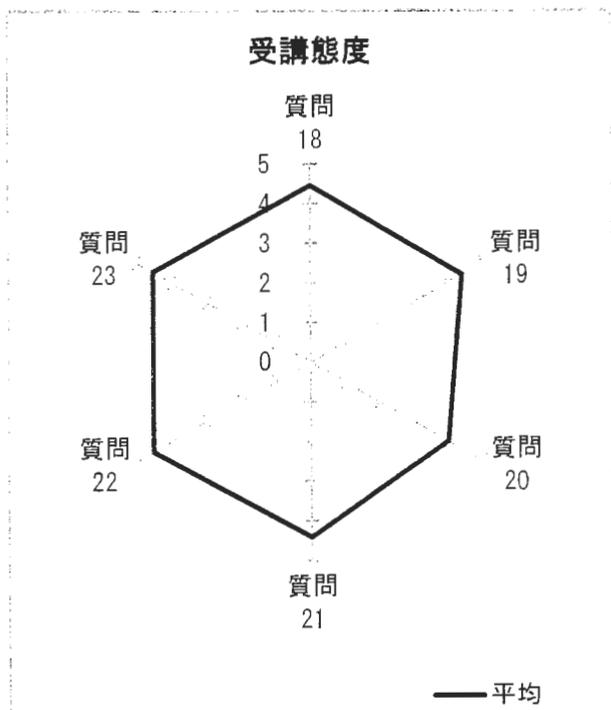
科目コード 987 (2017年度 前期)

看護学部看護学科 崔 炳一 キリスト教学IV



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.8	2.5
質問 8	4.7	4.8	3.5
質問 9	4.5	4.7	3.0
質問10	4.5	4.8	3.0
質問11	4.5	4.8	3.0
質問12	4.5	4.8	3.0
質問13	4.6	4.8	3.5
質問14	4.6	4.8	3.0
質問15	4.4	4.6	3.0
質問16	4.5	4.7	3.0
質問17	4.4	4.6	3.0
平均	4.5	4.7	3.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8 : 教員の授業時間遵守  
 質問 9 : 教員の話し方  
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ  
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)  
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか  
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.4
質問20	4.0
質問21	4.4
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.4

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)  
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	崔 炳一	キリスト教学Ⅳ	18名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

今回の評価を総合的に言えば、去年よりは全体的な少し平均が0.2ポイント下がったが、やや予想の通りの評価を得たと思う（全実施科目の平均より0.2ポイント上）。第一回の授業のとき、シラバス、また授業の内容、進み方などについて行った説明が効果的だったと思う。また、授業に臨む姿勢、学生としてのマナーについては、オリエンテーションのとき説明をしたため、時間を割いて指導を行うことは特にしない。基本的なマナーに関しては学生本人に任せている。

今回の調査から分かったのは、適切な視聴覚資料および教員が作成したプリントを用いたのが有効だったことである。聖書とキリスト教になじみのない学生たちに、キリスト教への興味を持たせるために名画や音楽、イラストなどを用いたが、それによって学生の興味関心の範囲が広がったと思う。また、キリスト教を学ぶことに不安や抵抗感を感じないように比較的に取り組みやすい授業環境をつくることを課題としていたが、その取り組み、細やかな配慮が効果的だったのではないかと思う。

今回の評価にも出ているが、課題としているのは学生にとって親しみを感じられるわかりやすい授業のためには、理解能力の低い学生のために、授業の全体的な難易度を下げること、そして難解なキリスト教的用語の使用をできるだけ避けわかりやすいことばで説明できるよう試みる。

## II. 2018年度に向けての取り組み

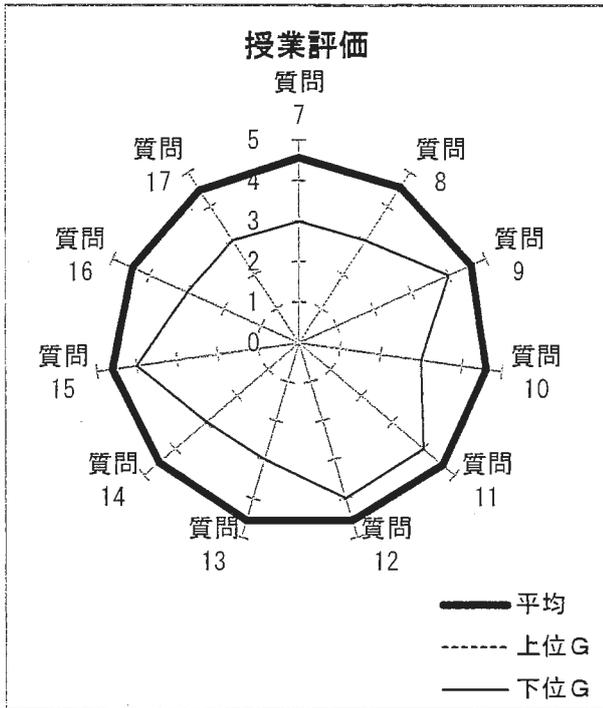
2018年度担当予定科目名： キリスト教学Ⅳ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

1. 適切な視聴覚教材を有効に使用する。
2. できるだけ單元ごとにレジメや関連資料を配布し、板書技術の向上を目指す。
3. わかりやすい説明ができるように継続的に工夫する。
4. キリスト教的価値観を社会で活かせるように社会問題を多く取り入れる。
5. 新しい知識、技術、理論、または最近の研究を紹介するように取り組んでいく。

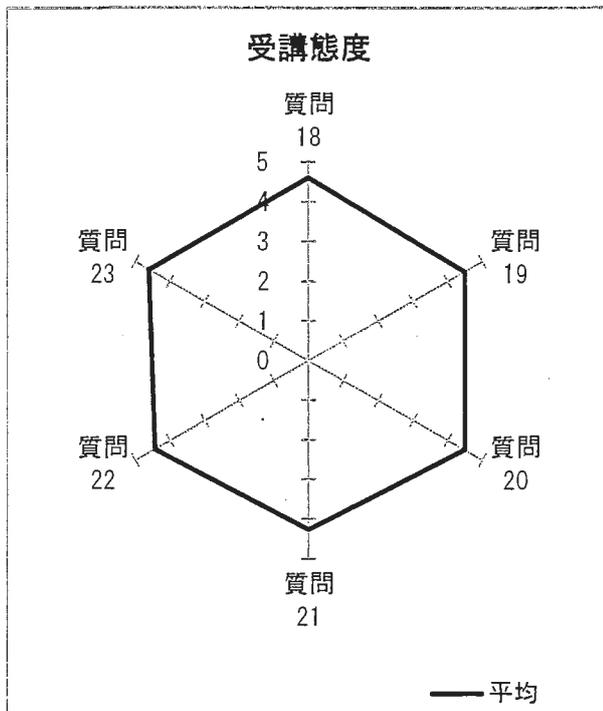
# 科目コード 557 (2017年度 前期)

音楽学部 音楽学科 草場 紀久子 教養セミナー I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.6	3.0
質問 8	4.6	4.6	3.0
質問 9	4.6	4.6	4.0
質問10	4.6	4.7	3.0
質問11	4.6	4.6	4.0
質問12	4.6	4.6	4.0
質問13	4.6	4.6	3.0
質問14	4.5	4.6	3.0
質問15	4.6	4.6	4.0
質問16	4.5	4.5	3.0
質問17	4.5	4.5	3.0
平均	4.6	4.6	3.4

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8 : 教員の授業時間遵守  
 質問 9 : 教員の話し方  
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ  
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)  
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか  
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.5
質問20	4.5
質問21	4.3
質問22	4.4
質問23	4.6
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)  
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
音楽学部	音楽学科	草場紀久子	教養セミナー I	23 人

2017 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

比較的活発に討論するクラスだったが、積極的に討論していく学生と受け身的な学生がいたように思う。それが上位 G、下位 G のポイントの開きに表れたと評価する。高校までの授業と違い、自分の意見を作り、述べていく形態の授業への慣れ、人前でプレゼンテーションをしたり、論理的に思考することの得意、不得意が学生それぞれにあったことが伺える。戸惑いや躊躇を感じる学生もいたように思える。

## II. 2018 年度に向けての取り組み

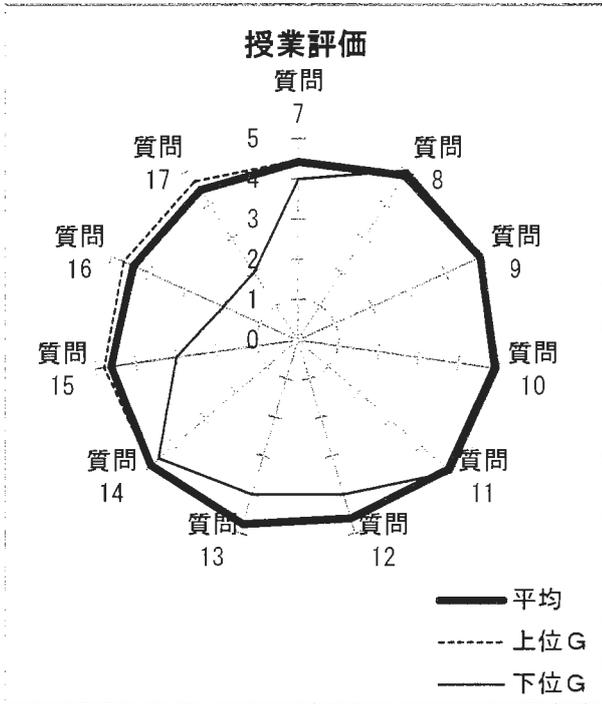
2018 年度担当予定科目名 :           教養セミナー I          

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

大学に入学してきたばかりの学年、時期なので、この授業の特殊性からくる上記のような戸惑いを理解し、学生の不安は払拭しながら授業を行いたい。慣れの問題でもある。鼓舞しながら学生の取り組みを進める形を取りたい。論理的な思考力、語彙読解力を高めたい。

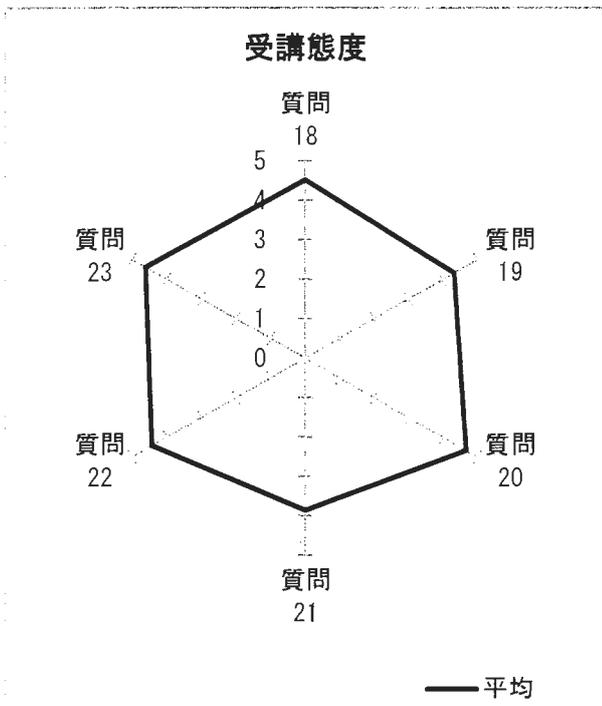
# 科目コード 558 (2017年度 前期)

健康生活学部 食生活健康学科 池田 光彦 教養セミナー I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.4	4.5	4.0
質問 8	4.9	4.8	5.0
質問 9	5.0	4.9	5.0
質問10	4.9	4.9	5.0
質問11	4.9	4.9	5.0
質問12	4.6	4.7	4.0
質問13	4.8	4.8	4.0
質問14	4.8	4.8	4.5
質問15	4.6	4.8	3.0
質問16	4.4	4.7	2.0
質問17	4.4	4.7	2.0
平均	4.7	4.8	4.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.3
質問20	4.7
質問21	3.9
質問22	4.4
質問23	4.6
平均	4.4

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	池田光壺	教養セミナー	21名

2017年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

### 【授業評価に関して】

上位Gでは質問7(4.5)以外の項目で4.7ポイント以上、上位G下位Gともに質問8-11が4.8ポイント以上であった。その理由として、あらかじめ用意されている教材通りの講義を行わなかったことが考えられる。担当者自身、今の教養セミナーの在り方に疑問を持っており、「大学で学ぶ教養」を一番の重要ポイントとして講義を展開した。今回配布されたアンケート結果資料にマークシートが添付されており、裏面に「先生は授業のことだけでなく、様々なお話をしてくださってとてもありがたかったです(原文ママ)」コメントが書かれてあった。それをみて、今回独自に進めていった教養教育の在り方が間違っていなかったと強く感じた。

一方、下位Gでは質問15, 16, 17が4ポイントを下回った。原因のひとつとしてあらかじめ用意されている教養セミナーの内容に不満を漏らす学生が少なくなくその影響が表れていると推測される。従って、教養セミナーの内容について見直す必要があると考えている。

### 【受講態度に関して】

受講態度については、質問21「授業の予習・復習を行ったか」のみ4ポイントを下回った。上記下線部にも記述しているが、あらかじめ用意されている課題の効果と必要性について学生自身が疑問を抱いている結果があらわれていると推察する。

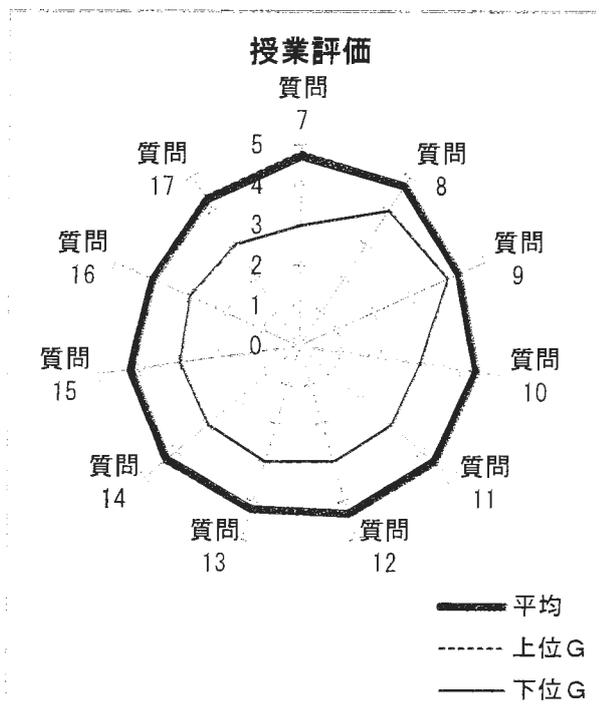
## II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：教養セミナーを担当するかどうかについては未定である

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

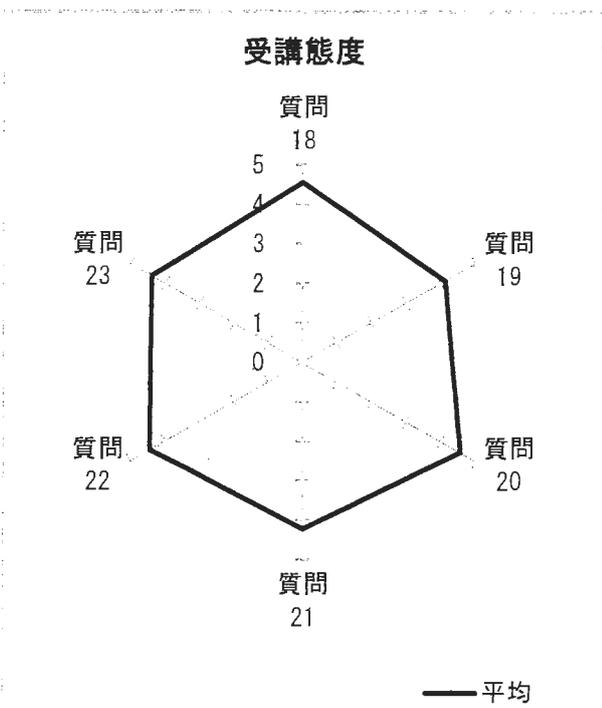
# 科目コード 560 (2017年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 上出 恵子 教養セミナー I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.8	3.0
質問 8	4.7	4.8	4.0
質問 9	4.3	4.3	4.0
質問10	4.4	4.5	3.0
質問11	4.4	4.5	3.0
質問12	4.3	4.4	3.0
質問13	4.2	4.3	3.0
質問14	4.3	4.4	3.0
質問15	4.2	4.3	3.0
質問16	4.0	4.1	3.0
質問17	4.3	4.4	3.0
平均	4.4	4.4	3.2

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.1
質問20	4.6
質問21	4.2
質問22	4.4
質問23	4.4
平均	4.4

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	上出恵子	教養セミナー I	21 名

2017 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

教養教育科目で1年生を対象としたいわゆる初年次教育の必修科目で、今回初めて担当しました。私自身が教材の理解に迫られ、それぞれの学生の理解度に合わせた対応が十分に出来ず、残念に思っています。2名の留学生、体調不良で欠席が多く、最終的には失格となった受講生、欠席が目立ち、レポートをはじめ提出物全て未提出で、単位が出せなかった受講生と、少人数でありながら多様な学生がおり、改めて初年次教育の大変さを痛感しました。

以上のように、私自身がいろいろな意味で問題を抱えたままの授業でしたが、質問 16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」は平均 4.0、質問 17「新しい知識・技術・理論等の習得への有用性」は平均 4.3 と、4.0 以上の評価であったので、安堵しています。ただ今回参考として頂いた全実施科目平均値は、質問 16 は平均 4.4、質問 17 は平均 4.5 というもので、全実施科目平均値には共に及ばず、課題は大きいと思っております。そこで出来ればですが、「教養セミナー I」で授業評価が高い授業の見学、もしくは担当者から授業方法を伺いたいと願っています。このことは授業改善のために今後重要になってくる事柄だと思われま。

この「教養セミナー I」の担当は、今回が最初で最後になりますが、教材の内容、分量共に私が担当した受講生にマッチしていないと感じました。今のままの内容ならもっと時間をかけて理解を図る、量的な部分の変更できないなら内容を分かりやすいものに変えるなど、受講生に合わせたものにする必要があると考えています。知識量や経験値も年ごとに著しく変化する学生にとって、最適な教材は何か、切れ目ない検討が今まで以上に求められていると言えるでしょう。

問題、課題山積の授業でしたが、受講態度に関して、全実施科目平均値と同じかそれ以上の評価の受講生の真面目さというものに支えられた授業だったように思います。

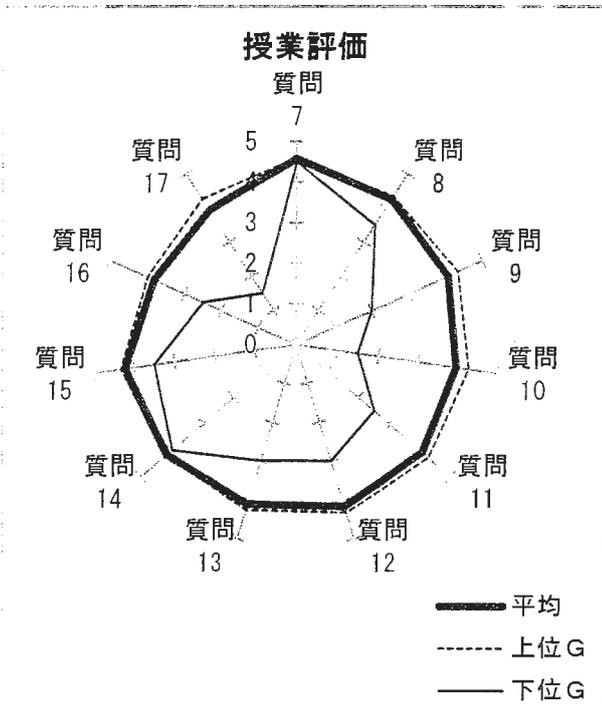
## II. 2018 年度に向けての取り組み

2018 年度担当予定科目名：           なし          

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

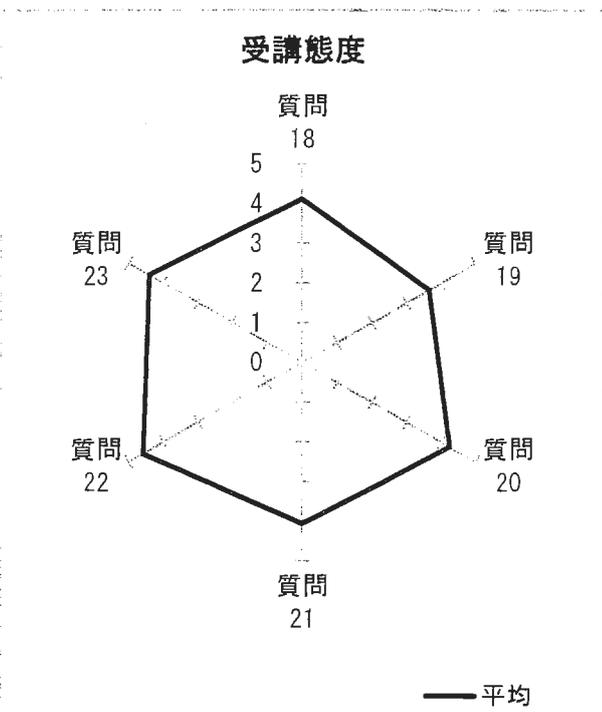
# 科目コード 561 (2017年度 前期)

看護学部 看護学科 應戸 麻美 教養セミナー I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.6	4.5
質問 8	4.2	4.3	3.5
質問 9	4.1	4.3	2.0
質問10	3.9	4.3	1.5
質問11	4.1	4.3	2.5
質問12	4.2	4.3	3.0
質問13	4.1	4.3	3.0
質問14	4.2	4.2	4.0
質問15	4.2	4.3	3.5
質問16	3.8	4.0	2.5
質問17	3.9	4.3	1.5
平均	4.1	4.3	2.9

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.1
質問19	3.6
質問20	4.2
質問21	4.1
質問22	4.6
質問23	4.4
平均	4.2

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
看護学部	看護学科	應戸	教養セミナー I	20

2017 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

今回初めて、該当科目を担当することとなった。科目責任者の先生の指示に従いつつ、講義を行っていった。しかし、事前課題、講義中のワーク、レポート作成等、その分量も多く、新聞記事や時事ワークの内容を、学生とともに掘り下げて検討したり、ディスカッションする時間も中途半端となってしまった。学生にしても、やや消化不良のような感じを受けていた。いただいた教材の中から、何を学生とともに掘り下げていくのか、知識のみ抑える内容はどれにするのか、教員自身の絞り込みや工夫が必要であると感じた。

## II. 2018 年度に向けての取り組み

2018 年度担当予定科目名 : \_\_\_\_\_

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

学生の興味のある記事等を用いて、ディベートなどを用いて、学生にグループダイナミックスを活用するなど、工夫する必要がある。